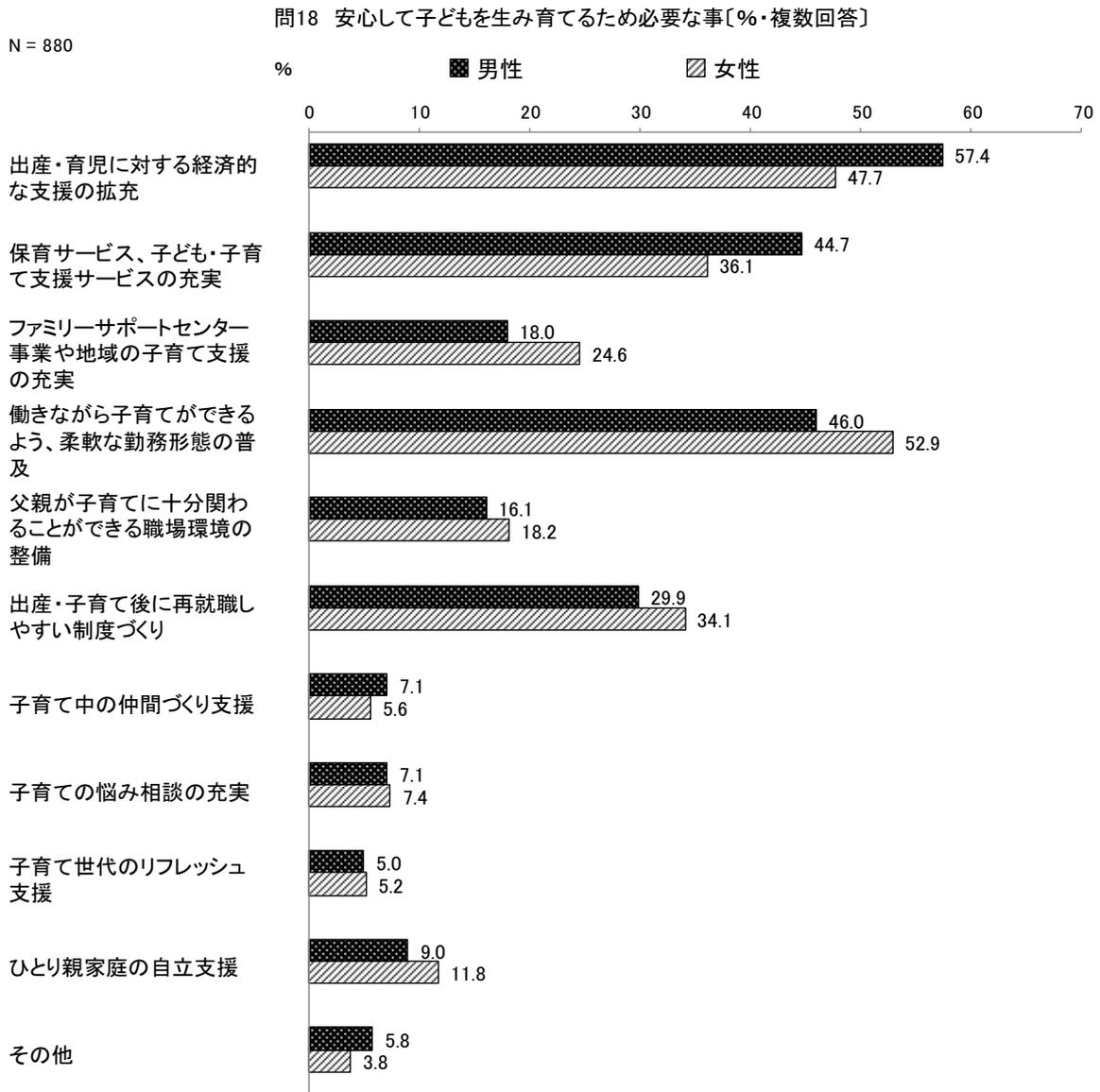


<性別>

男性は「出産・育児に対する経済的な支援の拡充」が57.4%、女性では「働きながら子育てができるよう、柔軟な勤務形態の普及」が52.9%と多い。



【詳細分析】

年齢×性別では、30歳代の男性で「出産・育児に対する経済的な支援の拡充」が73.9%と多い。
 婚姻状況別では、『離別、死別』で、「ひとり親家庭の自立支援」が24.7%と多い。
 子どもの有無別では、「出産・育児に対する経済的な支援の拡充」が、『小学校入学前の子どもがいる』と、『小学生の子どもがいる』で、70%台と多い。
 介護や支援を必要とする家族の有無別では、大きな違いはみられない。

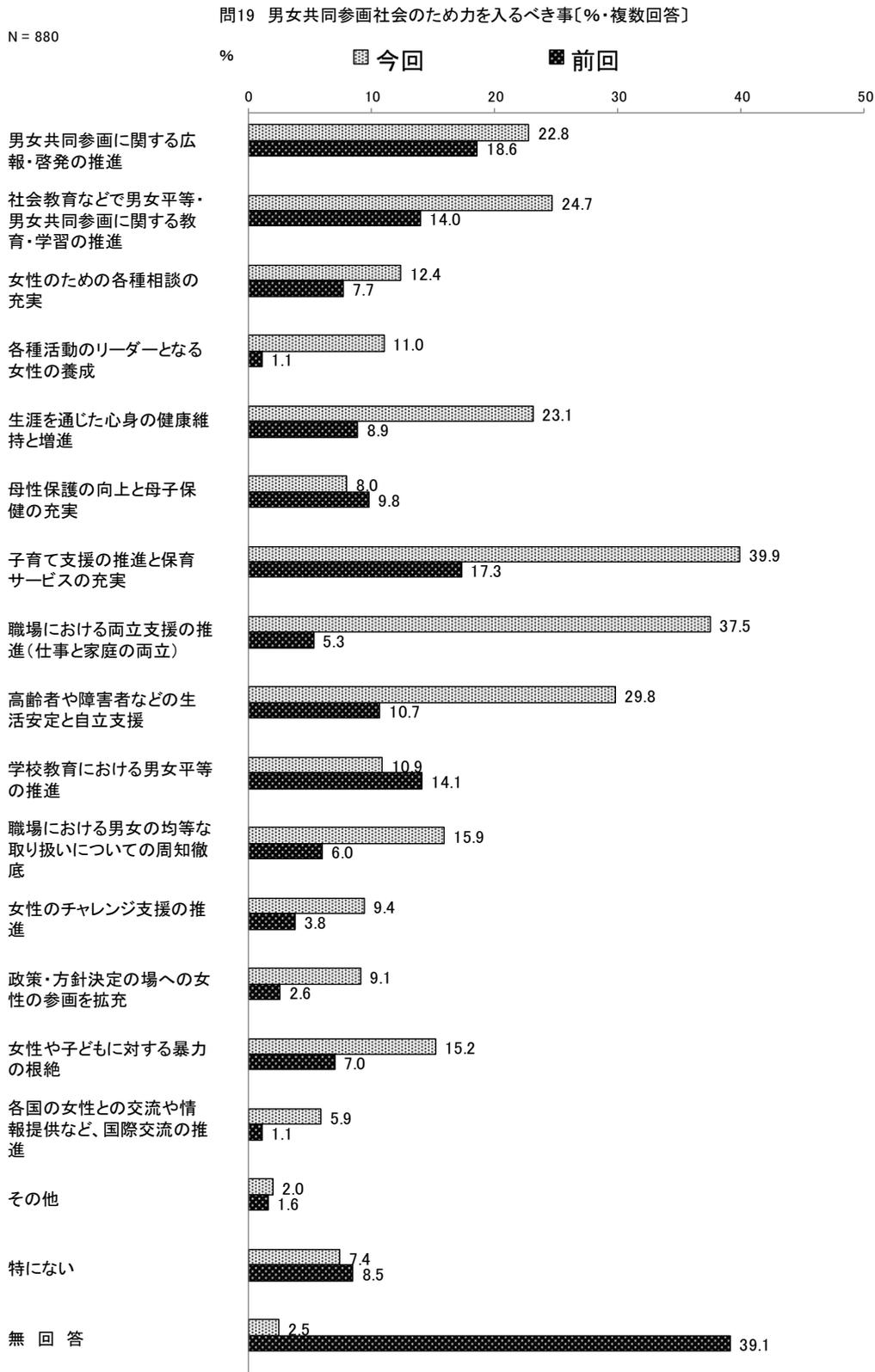
(単位：人、%)

	合計	出産・育児に対する経済的な支援の拡充	保育サービス、子ども・子育て支援サービスの充実	ファミリーサポートセンター事業や地域の子育て支援の充実	働きながら子育てができるよう、柔軟な勤務形態の普及	父親が子育てに十分関わることのできる職場環境の整備	出産・子育て後に再就職しやすい制度づくり	子育て中の仲間づくり支援	子育ての悩み相談の充実	子育て世代のリフレッシュ支援	ひとり親家庭の自立支援	その他	特にない	無回答
全体	880	51.9	39.9	21.7	50.0	17.4	32.3	6.3	7.3	5.1	10.7	4.7	6.4	2.0
年齢×性別	18～29歳-男性	43	53.5	39.5	11.6	55.8	23.3	9.3	9.3	4.7	-	7.0	4.7	4.7
	18～29歳-女性	52	67.3	36.5	21.2	42.3	17.3	28.8	3.8	11.5	5.8	17.3	1.9	9.6
	30歳代-男性	46	73.9	50.0	17.4	32.6	21.7	17.4	4.3	2.2	4.3	10.9	8.7	6.5
	30歳代-女性	62	59.7	33.9	22.6	51.6	22.6	35.5	3.2	-	4.8	8.1	6.5	4.8
	40歳代-男性	68	63.2	39.7	14.7	50.0	20.6	26.5	5.9	4.4	4.4	13.2	5.9	8.8
	40歳代-女性	96	45.8	28.1	21.9	57.3	24.0	28.1	6.3	2.1	8.3	12.5	8.3	4.2
	50歳代-男性	83	60.2	47.0	21.7	45.8	14.5	34.9	6.0	8.4	6.0	7.2	3.6	7.2
	50歳代-女性	115	41.7	39.1	31.3	57.4	14.8	33.0	7.8	11.3	3.5	12.2	1.7	7.0
	60歳以上-男性	138	48.6	45.7	19.6	45.7	10.1	34.8	8.7	8.7	5.1	10.1	5.8	7.2
60歳以上-女性	174	42.5	39.1	23.6	51.1	16.1	39.1	5.2	9.2	4.6	10.9	2.3	5.2	
婚姻状況	未婚	179	50.8	34.6	13.4	45.3	21.8	28.5	5.0	8.9	3.4	12.3	5.6	11.7
	既婚（配偶者がいる）	611	53.2	41.7	25.2	50.6	16.4	33.1	6.5	6.4	5.2	8.0	4.4	4.9
	離別、死別	65	45.9	37.6	15.3	55.3	15.3	34.1	7.1	10.6	8.2	24.7	4.7	5.9
子どもの有無	小学校入学前の子どもがいる	87	75.9	42.5	24.1	48.3	18.4	37.9	4.6	2.3	5.7	5.7	4.6	-
	小学生の子どもがいる	87	72.4	42.5	23.0	56.3	19.5	27.6	5.7	1.1	9.2	9.2	3.4	1.1
	中学生以上18歳未満の子どもがいる	101	56.4	39.6	27.7	53.5	15.8	32.7	7.9	4.0	2.0	11.9	2.0	5.9
	18歳以上の子どもがいる	447	48.1	40.5	25.7	52.6	16.6	35.8	7.4	8.5	4.9	11.2	3.4	4.9
	いない	234	47.9	35.0	15.0	44.0	18.8	26.1	4.3	8.5	3.8	11.1	7.7	12.8
と介護や支援を必要とする家族の有無	いる	197	51.3	40.6	23.9	53.8	16.8	31.5	4.1	6.6	5.6	10.2	3.6	7.1
	いない	674	52.2	39.2	21.2	49.1	17.7	32.5	7.0	7.4	5.0	10.7	5.0	6.2

問19 あなたは、男女共同参画社会を形成していくため、今後、市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。

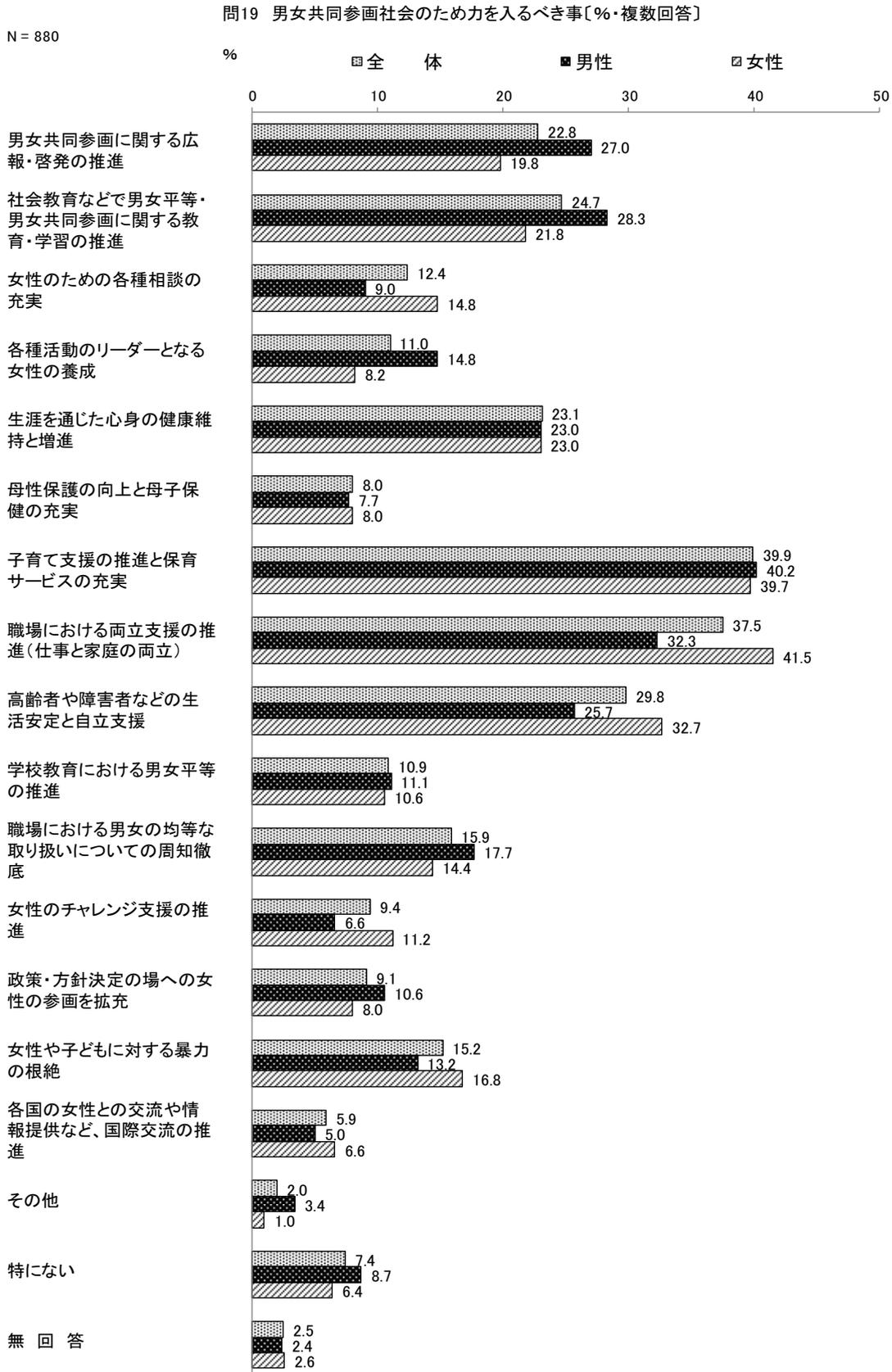
<全体>

「子育て支援の推進と保育サービスの充実」が39.9%、「職場における両立支援の推進（仕事と家庭の両立）」が37.5%と多く、「高齢者や障害者などの生活安定と自立支援」が29.8%、「社会教育などで男女平等・男女共同参画に関する教育・学習の推進」が24.7%と続いている。



<性別>

男性は「社会教育などで男女平等・男女共同参画に関する教育・学習の推進」が28.3%、「男女共同参画に関する広報・啓発の推進」が27.0%と女性よりやや多い。女性は「職場における両立支援の推進（仕事と家庭の両立）」が41.5%と特に多い。



【詳細分析】

年齢×性別では、60歳以上の男性は、「職場における両立支援の推進（仕事と家庭の両立）」が26.1%と少なく、「社会教育などで男女平等・男女共同参画に関する教育・学習の推進」（34.8%）、「男女共同参画に関する広報・啓発の推進」（34.8%）、「各種活動のリーダーとなる女性の養成」（18.1%）が多い。「高齢者や障害者などの生活安定と自立支援」は、30歳代の女性で14.5%と少なく、50歳代、60歳以上の女性でともに41%台と多い。

婚姻状況別では、『離別、死別』で、「社会教育などで男女平等・男女共同参画に関する教育・学習の推進」「高齢者や障害者などの生活安定と自立支援」が、ともに全体に比べ5ポイント程度多い。

子どもの有無別では、『小学校入学前の子どもがいる』と『小学生の子どもがいる』で、「子育て支援の推進と保育サービスの充実」「職場における両立支援の推進（仕事と家庭の両立）」が多い。

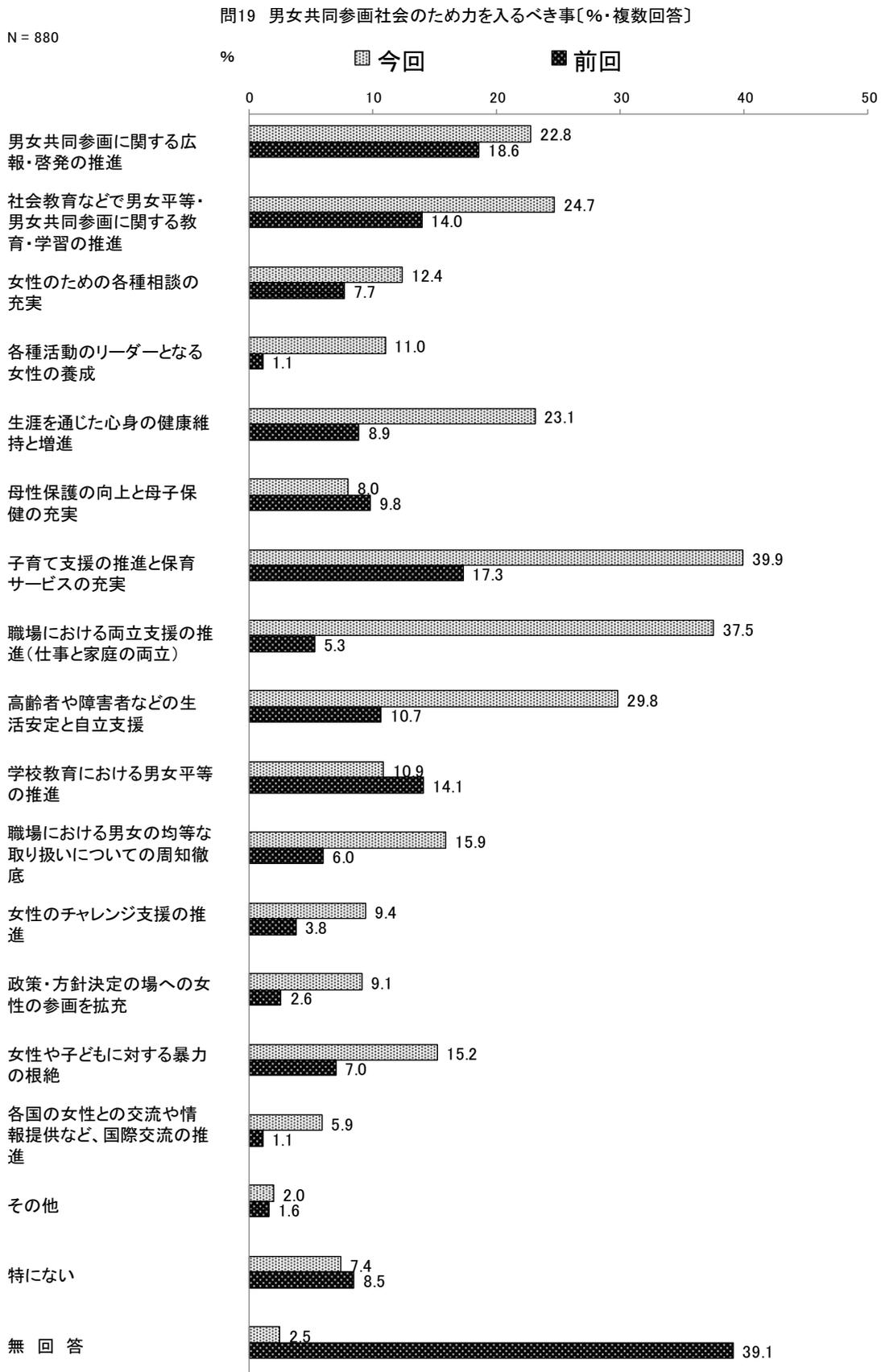
介護や支援を必要とする家族の有無別では、『いる』で、「高齢者や障害者などの生活安定と自立支援」が多く回答されている。

(単位：人、%)

	合計	男女共同参画に関する推進	社会教育などで男女平等・男女共同参画に関する教育・学習の推進	女性のための各種相談の充実	各種活動のリーダーとなる女性の養成	生涯を通じた心身の健康維持と増進	母性保護の向上と母子保健の充実	子育て支援の推進と保育サービスの充実	職場における両立支援の推進（仕事と家庭の両立）	高齢者や障害者などの生活安定と自立支援	学校教育における男女平等の推進	職場における男女の均等な取り扱いについて周知徹底	女性のチャレンジ支援の推進	政策・方針決定の場への女性の参画を拡充	女性や子どもに対する暴力の根絶	情報の提供など、国際交流の推進	その他	特になし	無回答	
全体	880	22.8	24.7	12.4	11.0	23.1	8.0	39.9	37.5	29.8	10.9	15.9	9.4	9.1	15.2	5.9	2.0	7.4	2.5	
年齢×性別	18～29歳-男性	43	20.9	18.6	7.0	9.3	16.3	7.0	34.9	37.2	14.0	9.3	20.9	4.7	2.3	14.0	2.3	7.0	9.3	7.0
	18～29歳-女性	52	13.5	17.3	13.5	13.5	19.2	21.2	46.2	46.2	23.1	19.2	11.5	11.5	15.4	13.5	11.5	1.9	9.6	-
	30歳代-男性	46	26.1	21.7	8.7	4.3	15.2	8.7	37.0	37.0	17.4	4.3	23.9	4.3	10.9	13.0	15.2	4.3	13.0	-
	30歳代-女性	62	21.0	12.9	14.5	3.2	14.5	6.5	50.0	48.4	14.5	11.3	14.5	11.3	4.8	17.7	8.1	-	8.1	-
	40歳代-男性	68	16.2	20.6	8.8	13.2	14.7	10.3	42.6	38.2	16.2	13.2	22.1	10.3	11.8	13.2	7.4	2.9	10.3	4.4
	40歳代-女性	96	19.8	17.7	15.6	6.3	14.6	10.4	39.6	50.0	22.9	13.5	12.5	10.4	5.2	17.7	9.4	2.1	7.3	1.0
	50歳代-男性	83	26.5	32.5	13.3	19.3	26.5	8.4	43.4	32.5	30.1	6.0	10.8	12.0	7.2	13.3	2.4	1.2	8.4	1.2
	50歳代-女性	115	22.6	27.8	16.5	7.0	29.6	7.0	40.0	36.5	41.7	5.2	17.4	11.3	8.7	16.5	3.5	-	7.8	0.9
	60歳以上-男性	138	34.8	34.8	7.2	18.1	29.7	5.8	39.9	26.1	34.1	15.9	16.7	2.9	14.5	13.0	2.9	3.6	6.5	1.4
60歳以上-女性	174	19.5	24.7	13.8	10.3	27.6	4.0	33.9	36.2	41.4	9.8	14.4	11.5	8.0	17.2	5.2	1.1	3.4	6.3	
婚姻状況	未婚	179	20.1	19.0	12.3	7.8	25.1	12.8	31.8	37.4	24.6	8.9	19.0	7.3	8.9	16.2	8.9	3.4	11.2	2.8
	既婚（配偶者がいる）	611	23.6	25.5	12.3	11.6	22.6	6.2	42.9	38.1	30.4	11.3	15.1	9.5	9.3	14.9	4.6	1.8	6.5	2.3
	離別、死別	65	24.7	29.4	12.9	12.9	21.2	9.4	35.3	31.8	35.3	11.8	15.3	11.8	8.2	16.5	9.4	1.2	5.9	3.5
子どもの有無	小学校入学前の子どもがいる	87	19.5	18.4	12.6	9.2	9.2	6.9	66.7	56.3	17.2	10.3	8.0	11.5	6.9	14.9	9.2	1.1	1.1	1.1
	小学生の子どもがいる	87	20.7	18.4	12.6	12.6	11.5	9.2	47.1	52.9	19.5	14.9	11.5	10.3	8.0	12.6	6.9	-	10.3	2.3
	中学生以上18歳未満の子どもがいる	101	23.8	21.8	10.9	8.9	10.9	6.9	42.6	40.6	20.8	17.8	13.9	4.0	5.9	17.8	8.9	-	11.9	2.0
	18歳以上の子どもがいる	447	23.3	28.4	13.2	13.2	27.7	6.3	38.5	34.0	36.9	11.6	15.2	9.8	8.9	16.1	4.3	1.6	6.3	2.2
	いない	234	22.2	20.1	12.0	6.4	23.5	10.3	31.6	37.6	25.2	7.7	20.5	8.1	10.7	17.1	8.1	3.8	11.1	3.0
と介護や支援を必要とする家族の有無	いる	197	24.4	26.9	14.2	12.2	20.8	6.1	37.1	36.5	40.1	8.1	17.8	8.6	8.1	14.2	5.1	1.5	6.6	3.0
	いない	674	22.7	24.0	11.9	10.5	23.7	8.5	40.7	38.1	26.4	11.7	15.4	9.5	9.3	15.6	6.2	2.1	7.7	2.1

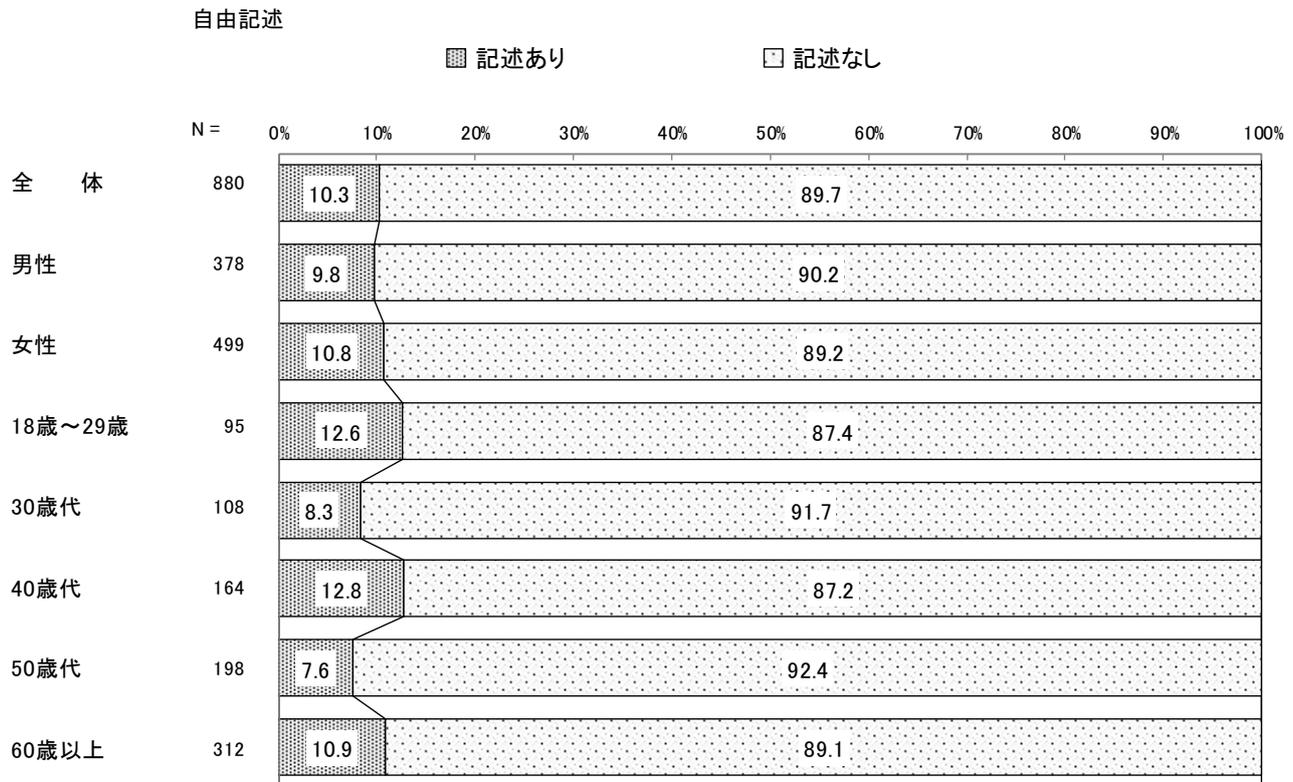
<前回調査との比較>

前回調査との比較では、今回調査で前回調査を上回っている項目が多いが、その中でも「職場における両立支援の推進（仕事と家庭の両立）」「高齢者や障害者などの生活安定と自立支援」「子育て支援の推進と保育サービスの充実」が、今回調査で前回調査を大きく上回っている。



男女共同参画について、ご意見、ご要望があれば、下記の欄に自由にお書きください

全体では、10.3%が記述しており、子育てのこと、行政への意見等があげられている。



【意見まとめ】

順位	内容	件数
1位	子育てについて 母親の社会進出に伴い、母と子の希薄な愛情関係も問題視されているので、女性の就業支援と育児・子育てについても一緒に考えていかなければならない。男性も子育てに関わりやすくなるような職場の就業体制の見直しもいると思う。 少子化ということもあり放課後児童クラブや母親のサポート等、わりと充実しているように思う。	17件
	行政、アンケートへの意見 アンケート結果の公表を希望する。色々考える貴重な機会をいただいた。男女共同参画という大きな課題のアンケートは幅広く重い内容で、負担が大きな問題だった。	
3位	就労、人材育成について 子育てをしながら家庭と仕事が両立できる職場や社会環境や支援が必要である。女性の就労条件や就労機会の向上。女性の子育てを支援する制度を周知するとともに実効のある制度の仕組みを作る。行政機関に於いてリーダーとなる女性を養成しポストに就けることでPTAや自治会活動などの男性偏重の慣例を減らしていく。	各13件
	意識改革、啓発・啓蒙について 昔からの、男性はこうあるべき、女性はこうあるべきという固定観念を払拭しない限り、いつまでも男は仕事、女は家庭と思われたままだと思う。女性が活躍することが特別なことではなく普通のことである社会になってほしい。	
5位	男女の役割について 男の役割、女の役割があってしかるべき。男性・女性それぞれに合った業務もあるかとは思うのでその兼ね合いも難しいと思う。	9件

性別	年代	内容
女性	30歳代	子育て世代が共働きするには父親の家事育児参加が必要。そのためには男性の勤務時間が短くなるような社会全体の意識改革しなければならないと思う。子ども一人に対する学費が高すぎる事が少子化の要因であり、学費がかからなければ、我が家ももっと子どもをもっと増やせるのにと日々思う。どうか社会を変えてほしい。願う。
女性	40歳代	年代の上の方、特に年配の男性が基本的に市政を動かしていると思うので、もっと「市民の声」というものを聞いてほしい。古くからの固定的な事でも大切に残さなければいけないと思うし、変えていかなければいけないものもあると思う。専門的分野のプロの声を入れたり、「今後の日本」の中の「洪川市」の位置付けに合った動きを期待する。中学の息子2人と、幼児の息子1人がいるが、10年前より子育てはしやすい環境になった。ありがとう。
女性	40歳代	若い世代が将来的に、出産、育児に対して協力ができる場所や子育て支援をしていくべきだと思う。高齢者が増えている時代にシングルマザーも多すぎる。シングルマザーの支援はもっと厳しくするべきだと思う。働ける体なら自分たちで自立すべきである。
女性	40歳代	税金で食べさせてもらっている職業と民間の職業で大したボーナスなし、退職金なしで働いている大半の人とで、平等でないため根本から考える必要がある。健康者、病気を抱えている人と平等で仕事しろと言われても無理だし、障害者と健康者ですべて平等でないスタートがある中でのすべて平等にと国が認めていないので、地区でどのように男女共同参画社会は何かできるのか見守りたい。
女性	30歳代	今回のアンケートで「男女共同参画社会」という言葉を知った。幅広い年齢層に親しみやすい地域活動の広報の発行を希望する。地域ボランティア活動に興味があるのだが、初心者でも参加できるような活動があれば参加していきたいと思う。地域の人と交流することで、自分の知らなかった「洪川市」のことが発見できるのではないと思った。
女性	60歳代	女性の引け目を払拭しきれないことが多い。大きなハンドルを真つぐには切れない。
男性	60歳代	女性の就労条件や就労機会の向上。女性の子育てを支援する制度を周知するとともに実効のある制度の仕組みを作る。
男性	18～29歳	現在自分は独身の為、はっきりとした答はわからないことが多い。念のため。
女性	40歳代	男女平等の大前提があり、産休育休制度の充実や、介護休業等制度も自由にとれる規則になっているが、取得した人への理解や協力が想像以上に薄く、制度があっても取るのをためらう人をたくさん見てきた。自身も活用したいと思えなかった。取得を申し立てたとたん、肩たたきに合い、辞めた。育休後、復帰した職場が前職と異なる作業になり、育児と両立できなかった(前職ならば続けられた)など、我慢するか、辞めるか、産まないか、の選択しかないのが現実、という気がする。会社は制度の体制を整えれば終わり、である。
女性	50歳代	各世代により考え方も違ってくるので幅広い人の交流の場をまず作ってほしい。子育て世代と一口に言っても祖父母の協力を得られない状態の人には、例えば病児保育(群馬は遅れている)がタイムリーで、使える支援(小児科やシニアボランティアと連携して)を行なえるようにして、週1回半日でも良いので母親が一人で過ごせる時間(息抜き)を作るなどが希望である。収入の多い若い人はそれなりの負担をしてほしい。給食費無料・病院代無料はおかしいと思う。貧乏老人からの税天引きはひどいと思う。もっと市が節税して老人の住みやすい社会へ向けての勉強をできるように、健康のための場づくりと、家庭訪問で一軒一軒の実情をつかんでほしい。子どもふたりが専門職のため発揮できる場がなく県外で就職した。帰る雇用がない。
女性	18～29歳	そもそも男女共同参画社会とうたう時点でいかに男女格差があるかわかると考えていた。東京の企業で働いている友人は産休・育休を取得しているが、地元の友人でそのような例は聞かない。法律がどうこうの前に、地域として「女性は家を守る」という形になっている印象である。私はたまたま福祉に関する資格を取得しているため、女性を保護するための法律については他の方より詳しい身であるが、全員がそうではない。こんなことをやっているという報告よりは、こういう条例がある、という当事者意識に訴えかける発信が必要ではないか。
女性	50歳代	性差で否定するのではなく、それぞれの強みや特性を発揮して助け合えるような形が理想的である。お互いを思いやる気持ちや尊重する姿勢が大事だと思う。誰もが豊かな心持ちで暮らせるような未来を期待している。
女性	60歳代	働いている親がいつでも(休日等)安心して子供を預かってもらえる所があればとても助かるし、安心して働けると思う。
女性	60歳代	年金のみで生活できない弱者に相談支援を希望する。
女性	40歳代	LGBTIについても同様であるが、人間はそれぞれ個性があるものだから、男女が共同に参画する必要はないのではないか。
男性	60歳代	このアンケートで女性のリーダーとか女性のための何々とか女性への支援など、男女平等ではないことをすでに言っている。上に立つ人達が、男女に限らずすべての人達が平等であることをわきまえていれば社会は良くなり、その中から具体的な意見やアイデアが生まれると思う。洪川の経済の活性化によって出生率や他のことも改善されることが多くあると思う。
女性	60歳代	まだ始まったばかりで高齢者の意識にはピンとこないが、これから女子達の本気で勉学に励んで男子と同等の学力・知識を身につければ徐々に、という気はする。どう頑張っても体力では男性にはかなわないので張り合っても仕方がない。女性の得意分野で大いに知恵を発揮してほしいと思う。
男性	40歳代	女性自らが自分の能力に制限を設けている気がする。男だからできて女だからできないという意識を始めから持っている女性が多いのではないだろうか。仕事に男女差はなく、仕事のできる人とそうではない人の区別があるだけである。とはいえ女性が自ら積極的に会社・社会で活躍しようとする人は少ないと思われることから、まずは意識的に女性を登用する社会を形成し、女性が活躍しやすい状況を作っていく必要がある。女性が活躍することが特別なことではなく普通のことである社会になってほしい。
男性	30歳代	現在、男性の方が優位であることが家庭や社会においても同様といえる。そのためまず企業で女性の活躍する場や収入額が増える場所を作ることが第一歩ではないかと思う。企業側としても女性を登用する方が有益である制度(人件費が安い等ではなく、男性と同じ給与を与えて法人税が減税される等)を増やしていく必要がある。時間創出のため、地元採用になる市民・企業・自治体のそれぞれが有益となる仕組みを構築することが洪川市の活性化に繋がるのではないかと感じている。

性別	年代	内容
女性	40歳代	会社単位での就業環境の整備ではなく、社会全体としての、共通のバックアップが必要である。子育てが女性の社会参加への妨げになっていることは事実であるが、保育サービスの充実で解決しようとするには疑問を持つ。最終的に子どもを預かる保育・教育関係者にも家族があり、子どももいる。その家族・子どもに任せがいく事実にも重きを置き、同時に改善する配慮がなされなければならないと考える。
男性	60歳代	このアンケートは関係なかった。
女性	40歳代	群馬県には男子校・女子校という根深い考え方があるので共同参画には難しさを感じる。女性管理職は未婚の人も多い。子育てをして家庭と仕事の両立ができる様な職場や社会の環境や支援が必要である。母親の社会進出に伴い、母と子の希薄な愛情関係も問題視されているので、女性の就業支援と育児・子育てについても一緒に考えていかなければならない。男性も子育てに関わりやすくなるような職場の就業体制の見直しもいると思う。
男性	40歳代	昔から比べて何が変わったのか、もっと掘り下げて考えてみるべきである。男女平等の考え方は素晴らしい。しかしその裏にある姿は女性の進出による独立性向上による結婚率の減少である。その結果、少子化問題に発展している。根本として給与所得の格差、減少などがあげられる。政治家に高い税金を使っている。公務員も同様である。犯罪が多いのもっと目を向けるべきところは沢山あるはずである。頭のいい人達でもっと考えてみてはどうだろうか。
男性	40歳代	男性の家事・育児の役割が求められているが、朝早く出て行って夜遅く帰ってくる感じなので無理である。逆に時間と労力をもて余している元気な高齢者が多くいると思う。もっとシルバーパワーを活用する方法を考えてほしい。
女性	60歳代	パートを行う時、子どもの夏休み冬休みなどが長いため心配なことが多かった。夫は出張が多く、育児には参加してもらえなかった。安心して仕事ができれば良いと思う。子どもが大きくなると、親の面倒を見なくてはならなかったため、忙しい思いをしていた。
男性	60歳代	現在格差がますます広がり生活が難しくなっていることが全て、個人の商売も大手に独占され何もできなくなっている。このようなことを優先すべきである。これが実現されれば男女間の問題もなくなると思う。
男性	18～29歳	男女が平等に生活できるようにすることはとても大事なことだと思うが、一方で男性・女性それぞれに合った業務もあるかとは思うのでその兼ね合いも難しいと思う。
男性	60歳代	退職して10年近く平凡な生活をしていたので、男女共同参画という大きな課題のアンケートは幅広く重い内容で、負担が大きな問題だった。F6の質問はF4の世帯構成で夫婦のみに丸を付けたが、子どもが独立しているので「18歳以上の子どもがいる」にした。質問が理解しにくい。
女性	50歳代	男女があらゆる分野にともに参画するには施策や事業の企画、方針決定過程において時間帯を工夫したり託児コーナーを設ける等、参画できる環境を整えていく事が大切だと思う。それぞれの世代が抱えている問題や悩みを汲み取り安心して暮らせる社会であってほしいと願う。
男性	60歳代	いつも決まった部外メンバーの意志では駄目である。様々な層からの意見を聞き実施すべきである。社会福祉協議会等のメンバーでは駄目である。
男性	40歳代	女性が主体の職場が多く、女性が不遇されていると感じたことはない。むしろ30代40代で未婚の男性の方が差別されている気がする。教育の場においてイジメや不登校により著しく社会から外れた世代や方々を救済していく事が必要ではなからうか。現場からドロップアウトした場合の方がより社会への復帰のハードルは高く、男女共同参画以前に対策すべきではないか。子どもが育たなければ社会は成立しないことを大人は理解すべきである。
男性	60歳代	公務員が公務員のために考えているような事では駄目だと思う。職人の世界等、無理なものは無理と知ること大事である。群馬県は特にひどい所が多い。労働時間等、行政指導が行き届いているとはとても言えない。
女性	50歳代	高齢者の方は女性が意見を言うとしんがりであるという風習がまだに残っているように思う。この考え方が変わらないとなかなか難しい社会だと思う。
男性	60歳代	役所の目線ではなく各職業の立場になって調査票を作ってもらいたい。
男性	60歳代	賃金(組合などがある大手の妥結額)や産休・育休が実行されている企業、保育施設のある職場など、社会全体に大手企業ならばできることが基準になってメディア等で放送されている様に思う。制度があっても実際には実行できない企業等々が多いと思う。
女性	50歳代	その家庭で、その人で、意見も悩みも違うので個々の声を気軽に受け止め、直ちに動いてくれるコンビニ相談室がほしい。
男性	60歳代	このアンケートに答えたが集計が大変そうに役に立つのか疑問である。ないような気もするが、テレワーク・在宅ワークができる仕事はどこにあるのかを知りたい。
男性	18～29歳	男女平等を目指すことはとても大切なことではあるが、女性のためのという部分が強すぎである。看護師や助産婦などの一部の職場では男性がセクハラを受けていたり、平等な扱いを受けていない所も多い。本当の意味での平等を目指すのであれば、適した場所で適した性への支援が大切である。もう男性だけが優遇されている時代ではない。時には男性への支援もしっかりと考えてほしい。
男性	40歳代	このアンケートからは男女のひがみ根性が見え隠れしている。働く女性が当たり前だから男女平等という考えを押し付けている。仕事より家庭に重きを置く女性を、不当に評価を悪くする風潮をつくり上げている。少子化対策も度が過ぎると子どもができない人たちの精神的苦痛を増やすこともある。女性の社会進出は本当にすべての人が望んでいるのだろうか。頑張りたい人は素直に応援が良いと思うが、その他の人の逃げ道を奪って窮屈な社会に向かってはいないだろうか。おらかな世の中になれば自然と少子化は解消されると思う。
女性	60歳代	男女共同参画について、私は女性が家庭を守ることも立派に世の中の役割を果たしていると思う。女性でも社会の中で仕事を続けたい人は仕事をしていると思う。問19の内容をしてもしなくても、結果は同じだと私は思う。
女性	50歳代	少子化ということもあり子育て中の人々が利用する放課後児童クラブやママのサポート等、わりと充実しているように思う。私は50代だが、自分の体調も悪いうえ親の病院の送り迎え(介護はまだ不要)が多く、長時間働くことが厳しいので、働くママの支援だけではなく、後期高齢者が利用しやすい支援を考えてほしい。
男性	60歳代	現実ではいまだに閉鎖的な事が多々あるので教育現場から「学習をすべし」だと変えていくべきだと思う。
女性	18～29歳	男女共同参画と共に、外国の方も住みやすい市になってほしい。その為に英語表記のものを増やしてほしい。

性別	年代	内容
男性	40歳代	高崎・伊勢崎・太田になぜ人が集まるのかよく考えた方がよい。環状線の充実、おしゃれな店の誘致、分譲住宅タウンの造成、女性だけのイベントなど挙げたらきりが無い。現状のままであるならば自分も近い将来渋川市から出るつもりである。
女性	60歳代	女性の目線、右脳的な柔軟な発想、細やかな心配り、介護や衛生面等への天性の洞察、子ども等への接し方など、女性の優れた感性が社会の中に更に反映されたら、より明るく優しい社会になると思う。
男性	50歳代	昔からの、男性はこうあるべき、女性はこうあるべきという固定観念を払拭しない限り、いつまでも男は仕事、女は家庭と思われたままだと思う。平等に社会を変えようとするならば、まずは家庭内の夫婦の在り方を変える必要があるのではないかなと思う。
女性	30歳代	年収1000万以下の亭主が家庭で威張ってはいけないと思う。子育て妻は我慢の連続だということに気づくべきである。妻に働くな、家事に専念しろというのは言語道断である。そんな時代はもう終わっている。法律で、夫婦間で言うてはいけない言語を明言すべきである。渋川市には習い事が少ないしあっても遠方である。子どもが歩いては通えない場所がほとんどである。スクールを設けるのであれば車大国なのだからスクールバスを導入するか、各小学校の放課後などを利用して開催すべきである。台風で小学校の水泳記録会が中止になったと聞いた。予備日を設けずに即中止というのはあんまりだと思う。スイミングスクールに場所を借りるなどのそういう融通がまるでできない。田舎のくせに地域一体だと感じない。この時代、幼稚園で英語を教えるのは当たり前となっている。このままで良いのか疑問である。田舎には田舎の良さがあるが、渋川にはそれをまるで感じない。地域で教育を充実させてほしい。教育が充実すれば女性は家事に専念できる。働く場所がないのであれば家事に専念できる渋川になれば良いと思う。
女性	50歳代	私の地域では育成会の会長が女性の時があるが、育成会活動なのに小学生だけを対象とした事業があったりと偏った考え方をするのはどうかと思う。男性女性と分けるわけではないが会の事を考えてよい方向に向けていければ誰でもいいと思う。
女性	60歳代	女性のリーダー育成も大切だと思うが、言葉や感情の差があり不愉快になることもある。地域の活動もしづらくなってしまふ。
男性	50歳代	3人目の子どもが生まれた世帯には100万円を支給する。4人目には200万円を支給する。これを1年ごとに10回に分割支給して少子化をストップさせたらよいと思う。
女性	50歳代	アンケートに協力された方々のためにも、アンケート結果の公表を希望する。以前渋川市よりアンケート依頼があったが、結果報告を受けたことがない。一方的にアンケートを取るのではなく、市民がどのような考えを持っているのか皆が知りたいと思っている。
男性	40歳代	女性の生活に余裕を与えやる気を促す。男性の仕事への責任感を低下させる。これらがポイントだと思う。
女性	60歳代	問いかけを見ると先が明るくなるような企画ではあるが、これをまとめ、多くの人に理解できる文章で記憶に残り活用できる、参加しようと思う様に活用できるか疑問である。文章にすることは簡単で、こういう企画だと伝達することも簡単である。その前に沢山のいろいろな方が理解できる文章であることを期待している。ご苦労様。
男性	60歳代	地域においては共同参画にこだわらない。男女とも共同参画している。仕事上会社内や職場のことはわからない。それよりも渋川をもっと良くする方法を考えたい。市の働く方の仕事はパソコンに向かい何をしているのか。人数が多い。半分くらい中で仕事をし、半分はパトロールほか地域の見守りをする。同じ人間が作業着を着てカンを拾う、側溝の清掃や草刈りしてもおかしくない気がする。もっと体で働ける人材や、心を持った人が渋川には必要である。北海道のある町のようにはならないよう願う。新市長にも期待している。
女性	60歳代	年齢に関係なく未婚男女が知り合うチャンスを社会教育の1つとして推進してほしい。
男性	30歳代	基本的には女性の社会進出は男性の職を奪うことが多く、しかし収入も少ない時代となってきたので共働きをする人が増えているのが現実である。よって現状子どもを育てる人々は両親とも仕事についている世帯が多い。私は独身を貫き子どもを作らず、老いたら早々に死すべしと心に決めているが、子どもを持っている家族が悲しい結果にだけはならないよう、時代にあった対応を考えねばならないと思っている。
女性	50歳代	男女共同参画の意味が分からない。男性女性は身体的に全く違う。学力や技術、体力は相違なくても出産だけは男性には出来ない。男女平等というのが無理がある。女性の社会進出は素晴らしいが、家庭が一番大切だと考える女性も多い。男女共同参画もわかるが、一方的に女性に社会進出を押し付けている様にも思える。少子化を懸念しながら女性も男性と同じくらいに社会で働けと言われたら、結婚も子育てもしない。育児は24時間体制の仕事だが無給である。仕事をして給料をもらい自由に暮らす方が楽である。
女性	60歳代	若い人を増やしてほしい。せっかく育った若者は皆都会へ行って帰ってこない。もっと若い人が住みやすい、都会の大学に出ていった人や吉岡町などに家を建ててしまう人が渋川市に帰ってきたり家を建てやすい渋川市にしてほしい。渋川市の職員の給料を下げてほしい。
男性	18～29歳	女性だから評価されている場合がある。男女とも同じ物差しで評価されるべきである。女性だから優遇されるのはおかしい。実績に基づいて男女ともに評価されるべきである。産休等男女の違いから発生する事案については特別措置が必要だと思うが他はやり過ぎないことが重要ではないかなと考える。現実として女性が労働力として活用されなければ労働力は足りないと思うが、優遇ばかりされていると現状の働いている男性のやる気はなくなり、生産性が落ちる。
女性	50歳代	考える面は多々あるが正直自分達の老後の生活が心配であり真剣になれないのが本音である。少子化政策のための子育て支援。女性の社会進出ももちろん大切だが、私達50代の夫婦の老後に対する政策は今後されて頂けるのだろうか。きちんと税金・保険も納め、なおかつ次の世代への支援のため年金も削られていくのかと思うとやり切れない思いである。
女性	30歳代	出産後、働きたくても小さな子供がいると企業から嫌がられるし、すぐクビになる。男性の給与も都内と違って低いし、物価が安くて1人1台車を持つと維持費も高く、核家族では子供がもう1人ほしいと考えていても家計を考えると無理である。保険料・学童の費用、それだけでパート給与はほぼなくなる。少子高齢化が問題というが、働けば税金・保育料が上がり、当り前の結果だと思う。子どもを持つと損で生きづらいつい若い世代に思われて当然だと思う。

性別	年代	内容
女性	18～29歳	現在、通信制の高校で勤務している。近年子どもの教育に関して、父親が意欲的に参加する姿が多く見られ、両親ともに協力し合い子育てをされているのだと感じる。しかし、母子家庭も少なくはなく学費の支払い(全日制よりやはり高い金額が請求される。父子、母子家庭への支援もあるが、地域によって違うようである。)厳しい勤務体制を強いられているようだ。子どもに接する時間が少なく、引きこもりや犯罪に手を染めてしまう子どもとの関わり方に悩んでいる方もいる。そのような方たちのための相談所や勤務条件、家庭へのサポートの充実を増やしてほしいと思う。
女性	18～29歳	私のパートナーはトランスジェンダーである。戸籍変更をすれば結婚できるが、金銭・健康面のリスクなど考えると性別適合手術を受けるのはためらわれる。付き合ってから5年と9か月一緒に暮らして2年たつのに、家族としての証明、保障を一切持たないことに、将来への不安が募るばかりである。どうか、洪川市でもパートナーシップ制度の検討をしていただけないだろうか。人としての権利を平等にほしい。「人権の尊重洪川市」という看板をよく目にする。とてもいいアンケートだと思った。その熱意でどうかお願いしたい。
男性	60歳代	男女共同参画社会を推進するためには各々の職場の上司である課長さんの管理能力(部下の能力と適正を見抜くか)と女性の特徴を理解する力)をその上の部長が判断し、管理能力のある人を課長に昇進させる。現代は上記のような管理能力が必要とされる時代である。
女性	60歳代	やっぱり本人の自覚が大事だと思うのでそういう気持ちにまず持っていき事が一番だと思う。みな様お仕事ご苦労様である。
女性	60歳代	まだよく理解できない。
女性	40歳代	ジェンダーハラスメントが当たり前となっている企業ばかり。経営する側へのさらなる教育が必要だと思う。
女性	60歳代	人口減少を防止するため、男女の出会い(婚活)の機会を作り結婚してもらい、子どもを増やして子育て支援の推進と保育サービスを充実できたらいいと思う。
男性	18～29歳	どちらかといえば、全体的に女性を軽視しているように思えるアンケートだった。
女性	40歳代	タイトルがわかり難いので、ひらがなで「みんなで、ともにいきいき暮らそう計画」などにすると近づきやすくなる。男女平等という言葉よりも男女間で人をお互いを尊重する意識の方が最も大切だと思う。女性がすべてバリバリフルタイムで働いて社会に進出していきたくいわけではなく、子どもや家事のいろいろを大切にしながらも無理なく必要な分だけ収入を増やして、ゆとりを作りたい人も多くいると思う。パートの平日勤務はやりたくても夏休み・冬休み・春休みができない現実に対応してほしい。
男性	60歳代	市民全体の事を考えているか、公民館や体育館など一部の市民だけが使用して、まだ一度も使っていない人がいる。ましてや弱者の男女は使用は不可能である。その人たちも男女共同参画として考えているのなら言葉の羅列だけで終わらず洪川市が積極的に動くべきである。市はいつも市民から申請がなければ何もやっていない。弱者の男女なりを把握してこそ市民からの信頼を得られ、支援策などが成り立つと思うのだが、頑張れ洪川市。
女性	18～29歳	男女均等においては男性の目があるやりにくい部分があるのでは。啓発を促すよりも行動すべきだと思う。どうしたら女性が快適と思えるかディスカッション。女性目線が必要となる。
女性	40歳代	女性中心の職場なので特に考えたことがなく、急なアンケートの内容だったのでよく分からなかった。
女性	30歳代	女性自身の意識改革が必要だと思う。
男性	40歳代	行政機関に於いてリーダーとなる女性を養成しポストに就けることでPTAや自治会活動などの男性偏重の慣例を減らしていく。慣例的に男性がつくポストが多く疲弊している男性も多い。女性がポストをシェアすればお互いにとって住みよい社会になると思う。
女性	40歳代	何をしても、子どもの予定・学校行事が優先である。そんな生活だが子どもを育てるのにもお金がかかる。働かなければ足りないけど仕事と行事の両立は大変である。疲れる。男女共同参画と言われても、気持ちも時間も余裕がない。
男性	60歳代	安心して子育てできる収入・時間。女性が働くなくても大丈夫な政治。税金ばかり取りたがらない世の中。
女性	30歳代	男女共同参画や平等という以前にすでに地域の活動に不平等と思っている。子ども含め、住んでる地域には、育成会など、役員が1度しか回ってこない所もあれば毎年同じ方が役員も引き受けている現状を知らない方が多すぎるように感じる。そして子供のための育成会とはいえその役員に対する毎年の負担が大きすぎてもう少し自由に加入する市内の選択があってもいいように思う。小学生に上がったから育成会に入ると決まっているのもこの少子化に伴わない考えてほしい。また、中には家庭の事情により役員を断る方もいる中で残る人だけがやるようになっていくのすら不平等に思うが。
男性	18～29歳	本人重度知的障害者なので質問は最初の方のみ、代筆した。他の所は無回答でお願いする。
男性	30歳代	色々考える貴重な機会をいただいた。ありがとう。また送ってほしい。集計など大変だと思うが、よろしく願います。
女性	60歳代	子育て支援について、いつも経済的支援ではなく、もっと大切なことがあるのではないだろうか。
女性	60歳代	女性もやればできるという事を女性たち自身が自覚し積極的になれるよう、女性たちの啓蒙が必要である。
女性	60歳代	男女共同参画も良いことだが本旨だけでなく少子化が進んでいることに関し、企業が採用した社員全員を正社員として採用し、収入の安定をはかれば人口増に繋がるのではと思う。この調査だけでなく他にも期待したいと思う。
男性	60歳代	真に女性が男女共同参画を望んでいるだろうか。ある時は男女協働をうたい、ある時は女性だからという。やはり男の役割、女の役割があつてしかるべき。
女性	50歳代	何点か考え方に悩む質問があつた。現在の状況で答えるのか過去の状況を含んでの回答かF6結婚して同居していない場合F7どこまでが家族なのか、ペットも含むのか、質問については過去に該当したことがあつた質問が多数あつたがここ数年の状況で回答した。できればどれくらいの期間の状況で考えるのか示していただければよかつたと思う。
男性	40歳代	男女差別と区別は違う。単純には仕事と収入が増えれば、婚姻数も増え、人の増加に向かうと思われる。無理に女性が社会進出する必要はない。それがおかしいのなら過酷な就労環境でも半数を女性にする法律でもつくればよい。

性別	年代	内容
女性	40歳代	男性が育児休暇や家庭のために仕事を休んだり早退することがまだまだしにくい職場が多いと感じている。仕事の量も多く休みをとれたとしても翌日の残業が増えるなど女性側からも頼みにくいことが異なっているので現状を変えていくには時間がかかると思う。
女性	50歳代	女性がもう少し意識を変えてなんにでも参加できるように変わっていく事が必要と思う。それについての対策はわからないが、まず興味をもってもらえるといい。女性の賃金も男女と同じになるといい。
女性	60歳代	私たちの年代の子どもが進学、就職を考える時期よりなかなか正社員になれず大勢の方が退職させられたり、車、電機などで派遣社員が増え、安い賃金で使われ、その頃より、結婚する男性が少なくなり、妻子を養えず子どもの数が少なくなり少子化が進んだと思う。生まれた子供を持つところから考えて安心して一人でも多くの子どもが育てられる環境にしなければ発展はないと思う。
女性	50歳代	渋川市は男性がまだまだ女性は男性に従うものだと考えている方々が多い。保守的な考え方は特に男性に多くみられ、出身校、大学のくくりで仲間意識を持つような仲間はずれにする習慣は男性に特にあるように思う。今だに渋高渋女が共学になれないのも男女の差別が強いからなのでないだろうか。渋川市はまだまだ人間力の学びの必要性がたくさんあると思う。共同参画にしても、男性の得意なものがあるのに平等は間違いになると思っている。
男性	18～29歳	私の母は出産・育児・保育に関しては金銭面でも労力的にもだんだんと支援が広がっているのが分かるが、高齢者を介護す世代は何の支援もされていないと言っていた。子育ては小学校入学という目安もありゴールがあるが、高齢者介護は見えないゴールに向かって走り続けるしかないとも話していた。この世代と気が重くなった。若い世代だけでなく、色々な世代が参画していく必要性を感じた。

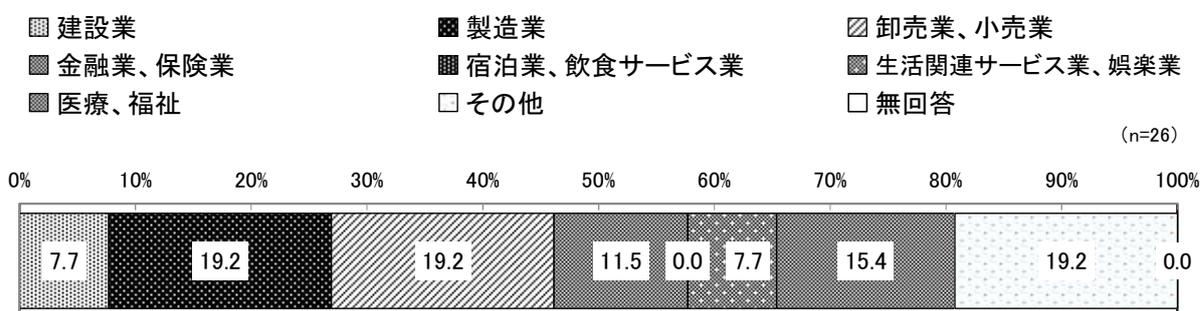
3. 事業所実態調査

3-1 貴事業所の概要

問1 貴事業所（貴社）の概要についてお答えください。

① 主たる業種

「製造業」と「卸売業、小売業」が19.2%と最も多く、ついで「医療、福祉」（15.4%）、「金融業、保険業」（11.5%）、「建設業」、「生活関連サービス業、娯楽業」（ともに7.7%）と続く。「その他」は「農業」、「不動産業」、「旅客自動車運送事業」などの回答があった。「宿泊業、飲食サービス業」は0.0%となっている。

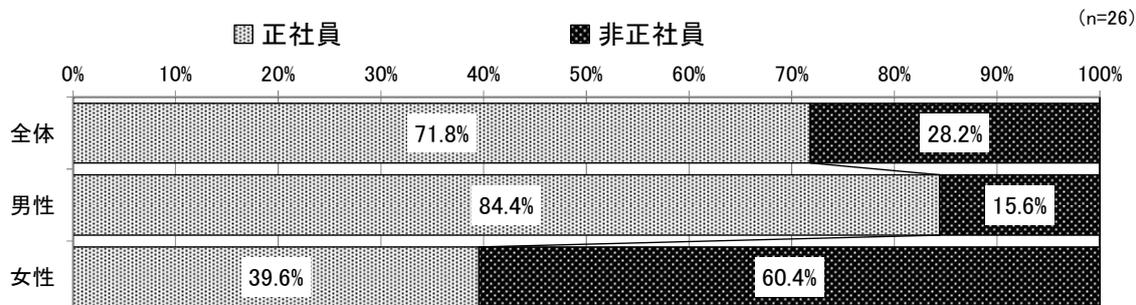


宿泊業、飲食サービス業は0.0%、その他は農業、不動産業、旅客自動車運送事業など

② 貴事業所の総従業員数（平成29年7月1日現在）

総従業員数は全体で2,253人。そのうち、正社員は1,618人（男性1,368人、女性250人）、非正社員は635人（男性253人、女性382人）である。正社員と非正社員の構成比をみると、正社員は71.8%（男性84.4%、女性39.6%）、非正社員は28.2%（男性15.6%、女性60.4%）となっている。

	総従業員数			平均人数		
	正社員	非正社員	合計	正社員	非正社員	合計
全体	1,618人	635人	2,253人	62.2人	24.4人	86.7人
男性	1,368人	253人	1,621人	52.6人	9.7人	62.3人
女性	250人	382人	632人	9.6人	14.7人	24.3人



事業所ごとに従業員数をみると、全体では「1～5人」の事業所が7事業所と最も多く、50人以下の事業所が全体の65.4%（17事業所）を占める。

また、事業所ごとの正社員の比率は、全体で「50%以上75%未満」が34.6%と最も多く、「75%以上100%未満」（26.9%）、「100%」（23.1%）と続いている。男女別にみると、男性では「100%」が50.0%と最も多く、次いで「75%以上100%未満」が26.9%となっている。

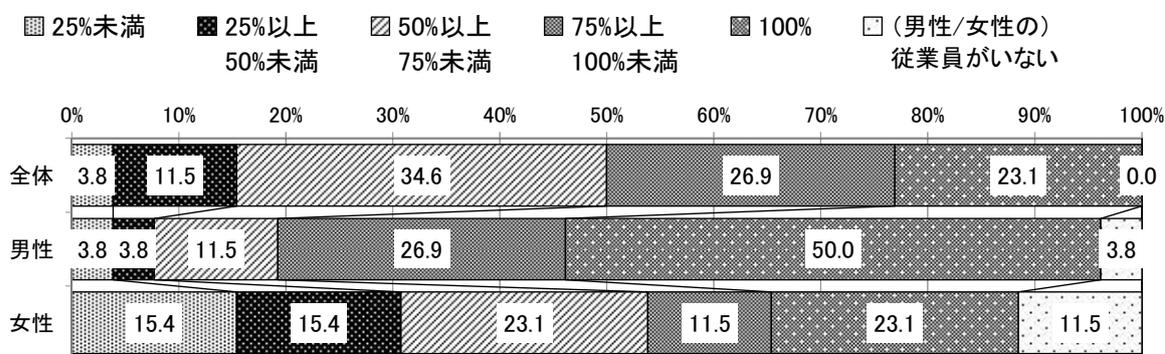
一方、女性では「50%以上75%未満」と「100%」がともに23.1%と最も多く、次いで「25%未満」、「25%以上50%未満」がともに15.4%となっている。

(n=26)

従業員数	1～5人	6～20人	21～50人	51～100人	101～300人	301人以上
事業所数	7 (26.9%)	4 (15.4%)	6 (23.1%)	2 (7.7%)	5 (19.2%)	2 (7.7%)

正社員比率別の事業所割合

(n=26)



③ 貴事業所の役職員数（課長職以上）（平成29年7月1日現在）

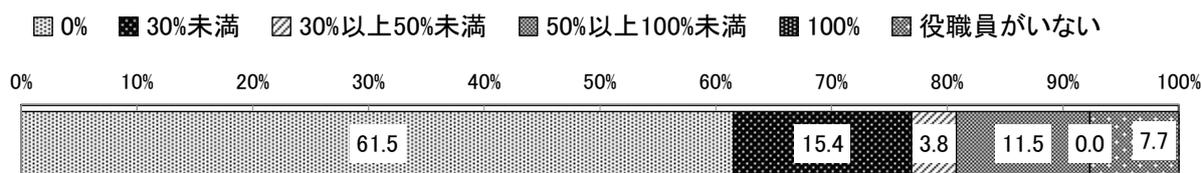
事業所全体で217人、そのうち女性役職者数は21人（9.7%）となっている。事業所ごとに女性役職者の占める割合をみると、「0%」が61.5%で最も多く、「30%未満」（15.4%）と併せて76.9%（20事業所）となっている。

(n=26)

役職員数（課長職以上）		1事業所あたり平均人数	
事業所全体	うち女性役職者数	事業所全体	うち女性役職者数
217人	21人(9.7%)	8.3人	0.8人

女性役職者の占める割合

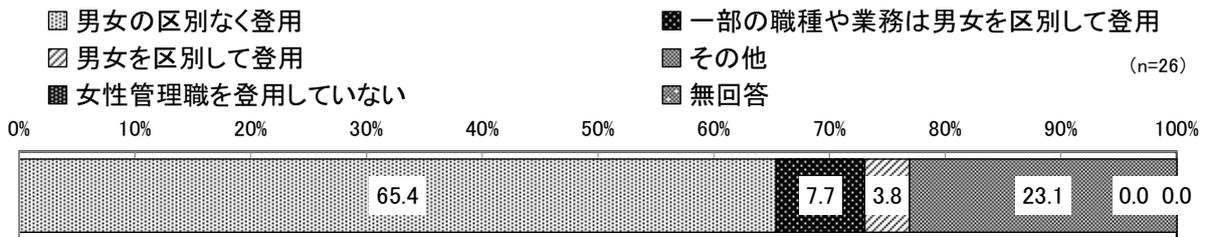
(n=26)



3-2 女性管理職の登用について

問2 貴事業所では、管理職をどのように登用していますか。

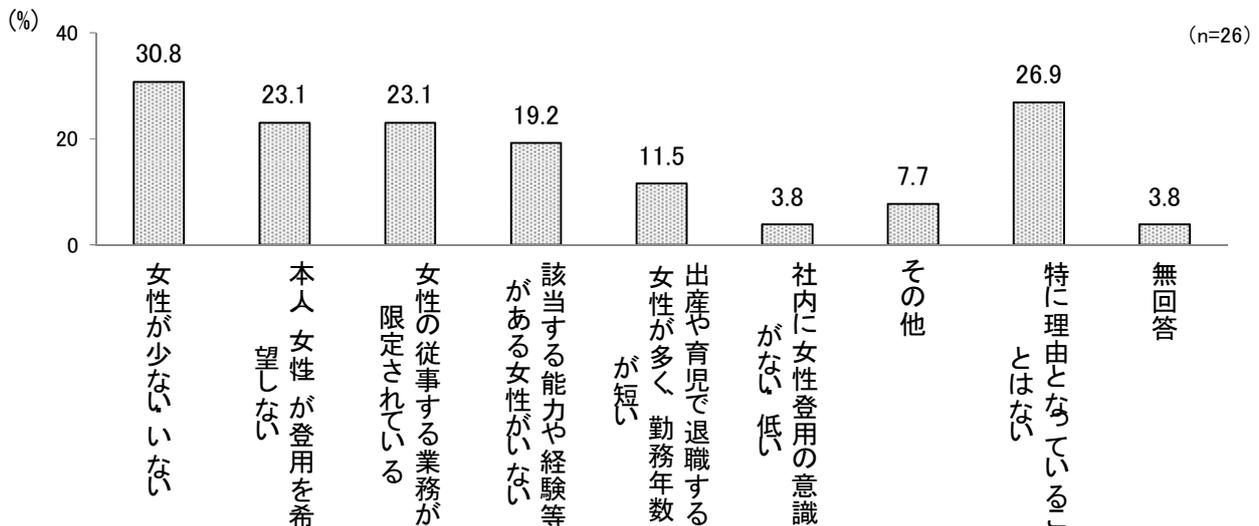
「男女の区別なく登用」が65.4%と最も多く、次いで「その他」(23.1%)、「一部の職種や業務は男女を区別して登用」(7.7%)、「男女を区別して登用」(3.8%)となっている。「その他」は「管理職そのものがない」、「女性の従業員がいない」、「一族会社のため、従業員からの雇用は考えていない」などの回答があった。



その他（従事者なし）

問3 貴事業所では、女性を管理職に登用しない・しにくい理由となっていることがありますか。

「女性が少ない・いない」が30.8%と最も多く、次いで「本人（女性）が登用を希望しない」、「女性の従事する業務が限定されている」（ともに23.1%）、「該当する能力や経験等がある女性がない」（19.2%）となっている。一方、「特に理由となっていることはない」と回答した事業所は26.9%である。



その他（経営者が雇用を考えていない、該当なし）

問4 女性を管理職に登用するためには、どのような取組が必要だと思いますか。必要度の高い順にご記入ください。

1番目に必要だと思う取組は「仕事に対する女性自身の意識改革」が23.1%と最も多く、「様々な職種や職域への女性の登用」(19.2%)、「特に必要だと思うことはない」(15.4%)、「育児休業や介護休業などの制度充実」、「模範となる女性管理職の育成」(ともに11.5%)と続く。2番目は「継続的な人材育成」が23.1%と最も多く、「模範となる女性管理職の育成」(15.4%)、「仕事に対する女性自身の意識改革」、「様々な職種や職域への女性の登用」(ともに11.5%)と続いている。

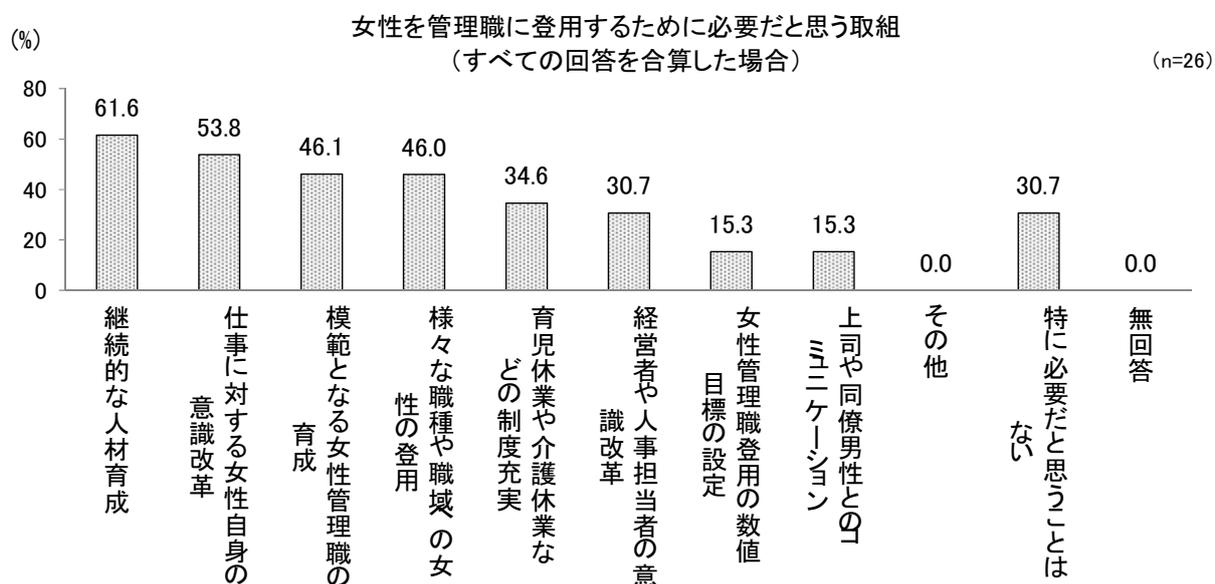
次に、3番目は「模範となる女性管理職の育成」と「経営者や人事担当者の意識改革」がともに15.4%と最も多く、4番目は「継続的な人材育成」が23.1%と最も多い。

また、1～4番目までのすべての回答を合算すると、「継続的な人材育成」が61.6%と最も多く、「仕事に対する女性自身の意識改革」(53.8%)、「模範となる女性管理職の育成」(46.1%)、「様々な職種や職域への女性の登用」(46.0%)、「育児休業や介護休業などの制度充実」(34.6%)と続いている。

(n=26)

	1番目	2番目	3番目	4番目
仕事に対する女性自身の意識改革	①23.1%	③11.5%	③11.5%	7.7%
様々な職種や職域への女性の登用	②19.2%	③11.5%	③11.5%	3.8%
特に必要だと思うことはない	③15.4%	3.8%	0.0%	②11.5%
育児休業や介護休業などの制度充実	11.5%	7.7%	7.7%	7.7%
模範となる女性管理職の育成	11.5%	②15.4%	①15.4%	3.8%
継続的な人材育成	7.7%	①23.1%	7.7%	①23.1%
経営者や人事担当者の意識改革	3.8%	0.0%	①15.4%	②11.5%
女性管理職登用の数値目標の設定	3.8%	7.7%	3.8%	0.0%
上司や同僚男性とのコミュニケーション	3.8%	0.0%	3.8%	7.7%
その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	0.0%	19.2%	23.1%	23.1%

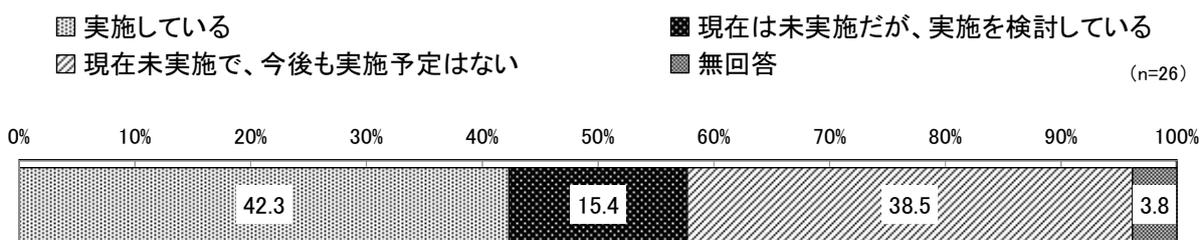
※○内の数字は重要度ごとに回答が多い順(上位3位まで)を表す。ただし、無回答はのぞく。



3-3 ポジティブ・アクションについて

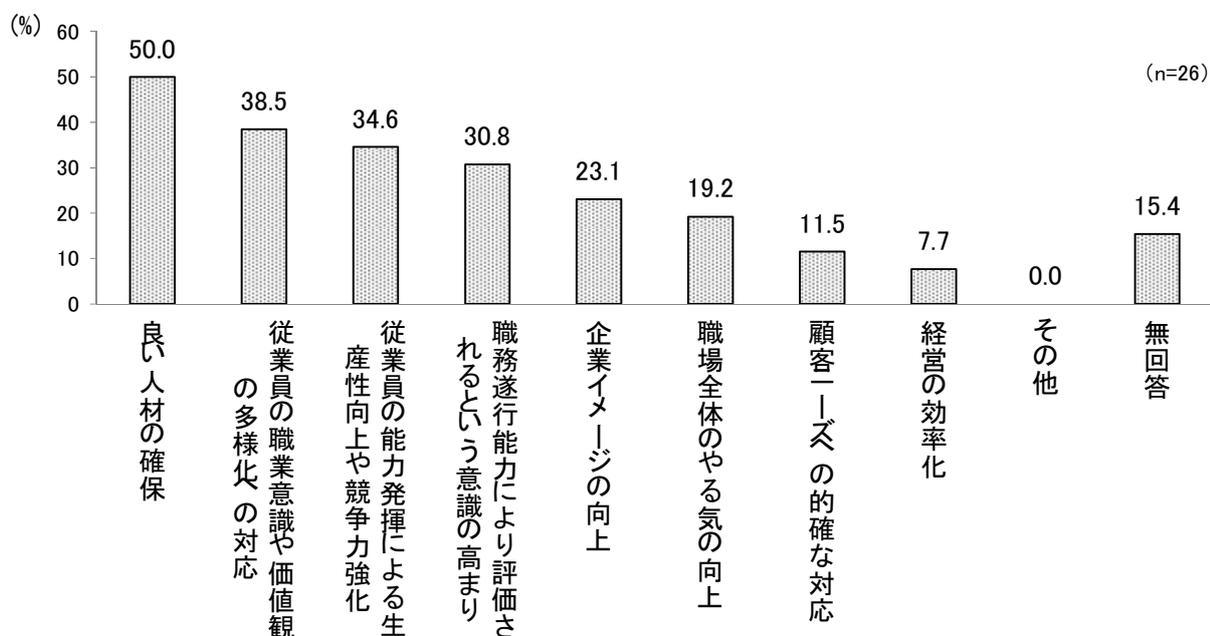
問5 国では、社会のあらゆる分野において、2020年までに女性が占める割合を少なくとも30%程度とする目標（202030）を設定しています。貴事業所では、男女間で生じている採用、職域、管理職登用、職場環境などの差の解消を目指した取組（ポジティブ・アクション）を実施していますか。

「実施している」が42.3%と最も多く、「現在未実施で、今後も実施予定はない」（38.5%）、「現在は未実施だが、実施を検討している」（15.4%）、「現在は未実施だが、実施を検討している」（15.4%）と続く。



問6 貴事業所では、ポジティブ・アクションの取組を行うことでどのような効果が期待できると思いますか。また、既に効果があらわれていますか。

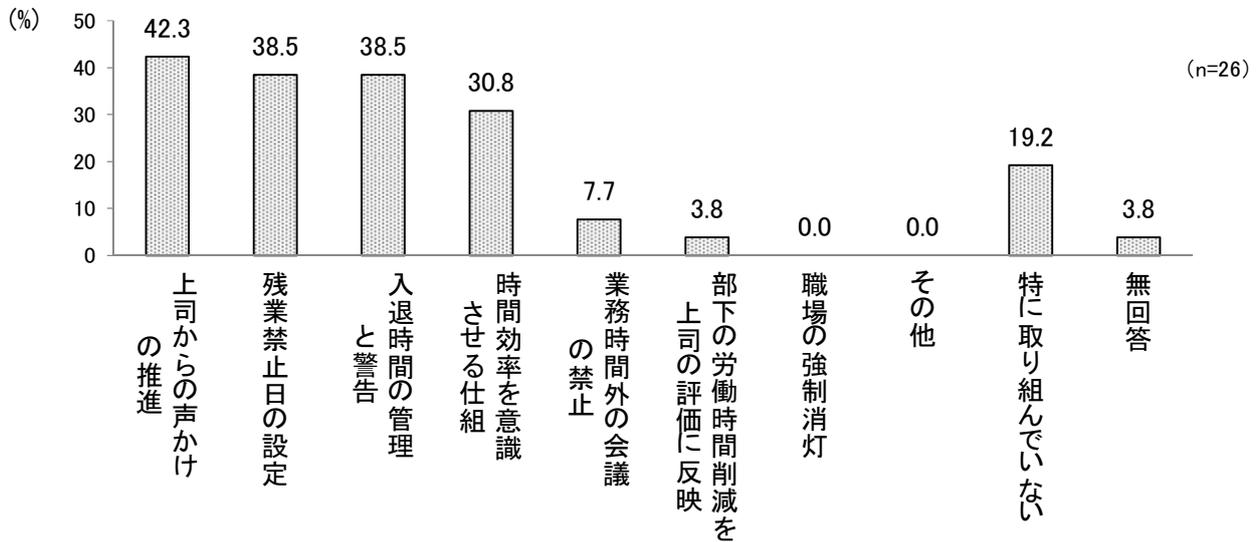
「良い人材の確保」が50.0%と最も多く、「従業員の職業意識や価値観の多様化への対応」（38.5%）、「従業員の能力発揮による生産性向上や競争力強化」（34.6%）、「職務遂行能力により評価されるという意識の高まり」（30.8%）、「企業イメージの向上」（23.1%）、「職場全体のやる気の向上」（19.2%）、「顧客ニーズの的確な対応」（11.5%）、「経営の効率化」（7.7%）、「その他」（0.0%）と続いている。



3-4 ワーク・ライフ・バランスについて

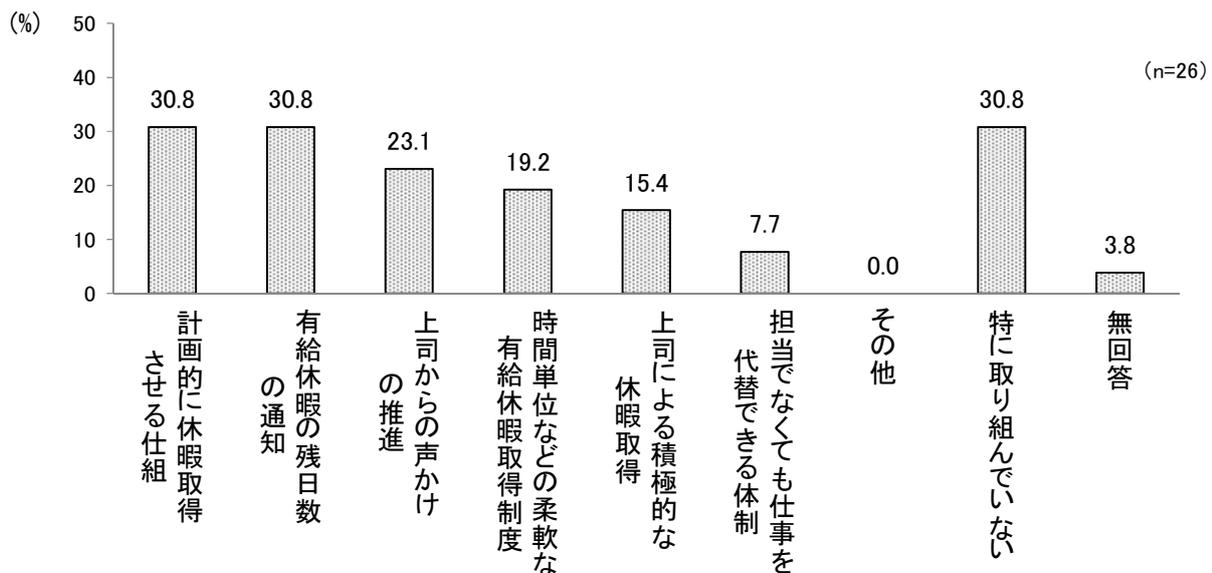
問7 貴事業所では、残業の削減のために、次のどのような取組を行っていますか。

「上司からの声かけの推進」が42.3%と最も多く、次いで「残業禁止日の設定」、「入退時間の管理と警告」（ともに38.5%）、「時間効率を意識させる仕組」（30.8%）となっている。



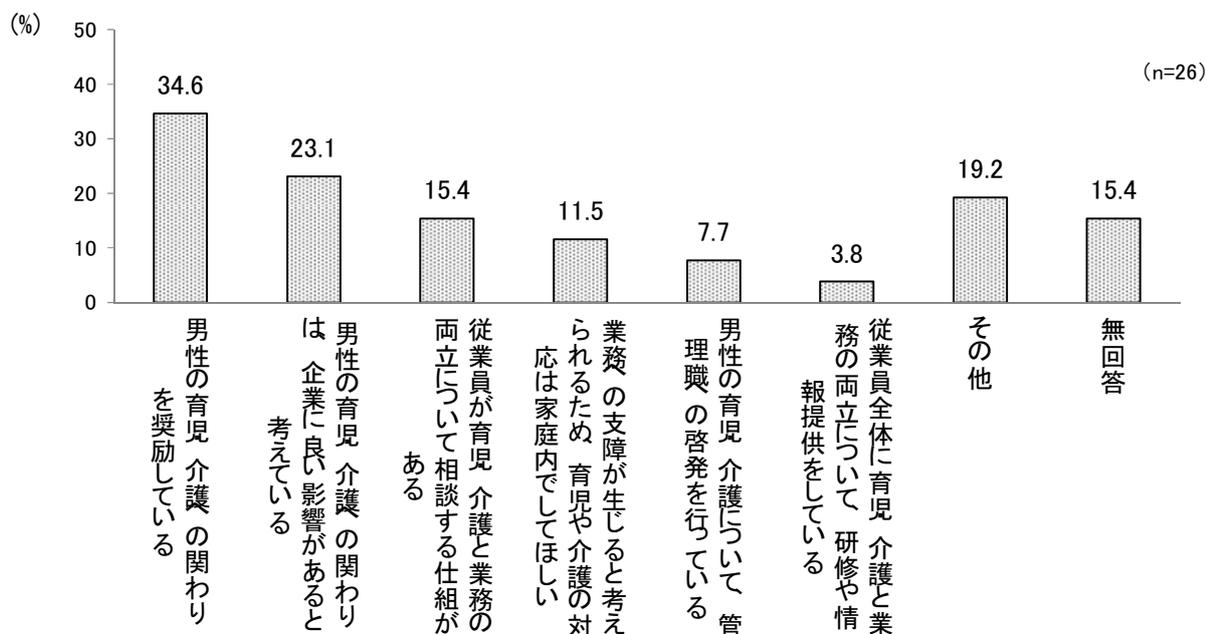
問8 貴事業所では、有給休暇の取得促進のために、次のような取組を行っていますか。

「計画的に休暇取得させる仕組」と「有給休暇の残日数の通知」がともに30.8%と最も多く、次いで「上司からの声かけの推進」(23.1%)、「時間単位などの柔軟な有給休暇取得制度」(19.2%)となっている。一方、「特に取り組んでいない」と回答した事業所も30.8%と多い。



問9 貴事業所では、男性従業員の育児や介護への関わりについてどのように考え、または対応していますか。

「男性の育児・介護への関わりを奨励している」が34.6%と最も多く、次いで「男性の育児・介護への関わりは、企業に良い影響があると考えている」(23.1%)、「従業員が育児・介護と業務の両立について相談する仕組みがある」(15.4%)となっている。「その他」は「相談があれば対応する考えはある」、「人員不足で不可能」などの回答があった。

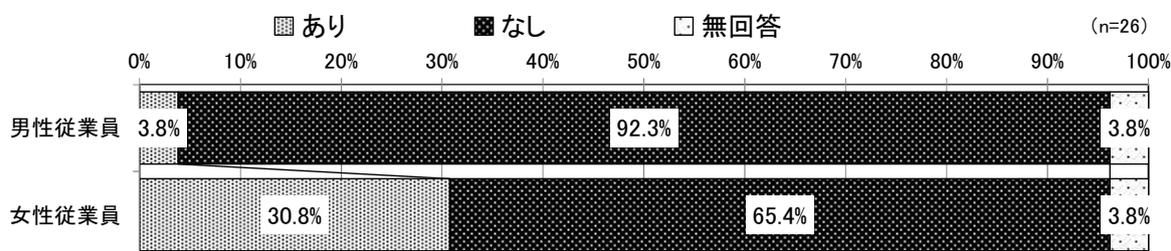


その他（男性社員なし、必要性が発生していない、人員不足で不可能）

問10 貴事業所では、平成28年度中に、①育児休業や②介護休業の取得実績がありましたか。

① 育児休業の取得

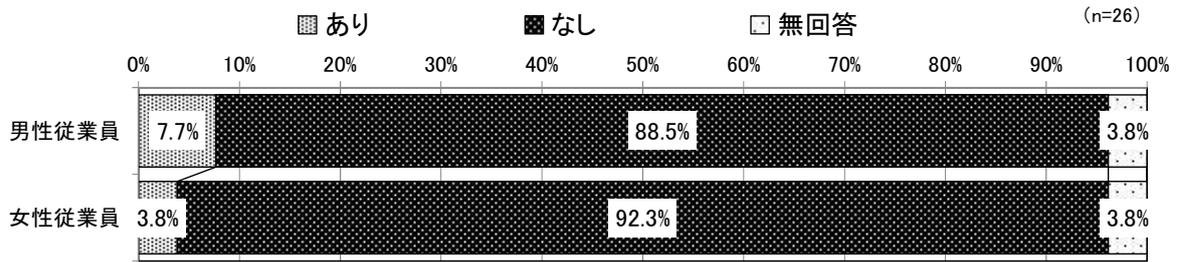
「あり」と回答した事業所は、男性従業員で3.8%、女性従業員で30.8%となっている。取得した人数は全体で13人（男性1人、女性12人）となっている。



	育児休業の取得人数(平成28年度中)				
	n数	総人数	平均人数	最小	最大
男性従業員	1	1人	1.0人	1人	1人
女性従業員	8	12人	1.5人	1人	3人

② 介護休業の取得

「あり」と回答した事業所は、男性従業員で7.7%、女性従業員で3.8%となっている。取得した人数は全体で5人（男性4人、女性1人）となっている。

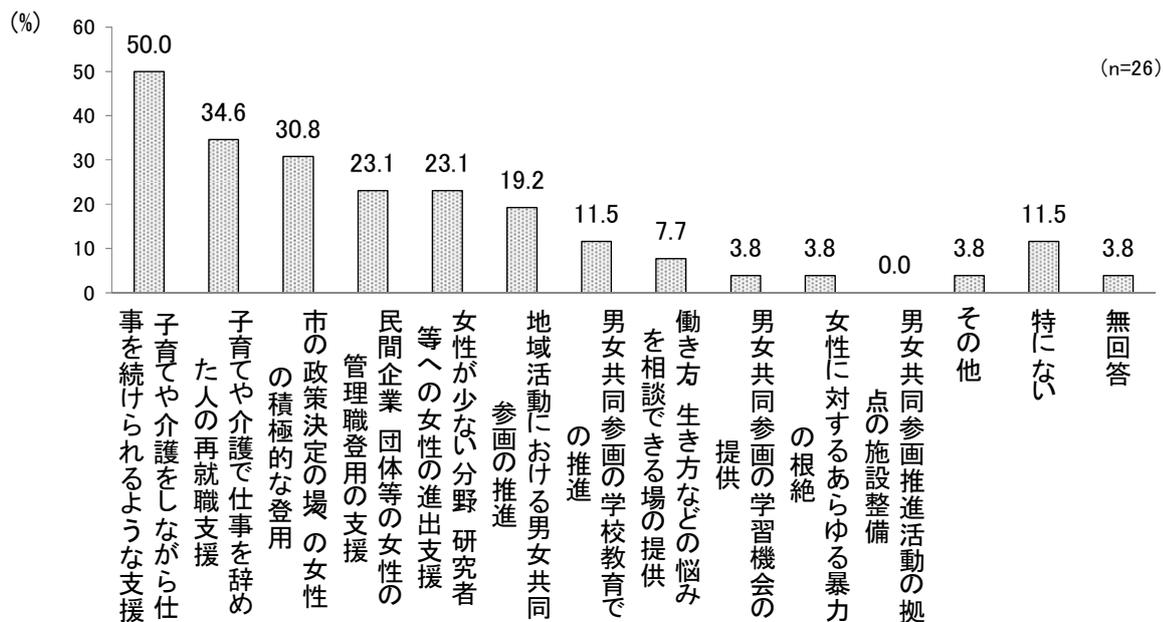


	介護休業の取得人数(平成28年度中)				
	n数	総人数	平均人数	最小	最大
男性従業員	2	4人	2.0人	2人	2人
女性従業員	1	1人	1.0人	1人	1人

3-5 男女共同参画社会の実現に向けて

問11 男女共同参画社会を実現するために、今後、渋川市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。

「子育てや介護をしながら仕事を続けられるような支援」が50.0%と最も多く、次いで「子育てや介護で仕事を辞めた人の再就職支援」(34.6%)、「市の政策決定の場への女性の積極的な登用」(30.8%)、「民間企業・団体等の女性の管理職登用の支援」、「女性が少ない分野（研究者等）への女性の進出支援」（ともに23.1%)、「地域活動における男女共同参画の推進」(19.2%)となっている。



自由意見

自由意見の記述はなかった。

資料

渋川市 男女共同参画に関する市民意識調査

〈調査の趣旨とご協力のお願い〉

市民の皆さまには、日ごろから市政にご理解とご協力をいただきましてありがとうございます。

渋川市では、男女が社会のあらゆる分野に共に参画し、それぞれの個性や能力を十分に発揮しながら、互いにいきいきと暮らすことのできる「男女共同参画社会」の実現に向けて、「渋川市男女共同参画計画」に基づき様々な取組を進めています。

この調査は、男女共同参画計画の策定や今後の施策の実施にあたって、市民の皆さまの考えをお聞きし、計画策定の基礎資料とするため、市内に在住する18歳以上の市民の方々から、性別や年齢に配慮したうえで2,000人を選ばせていただき、送付しています。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願いいたします。

平成29年8月 渋川市長

～男女共同参画社会とは～

男性も女性もすべての個人が、互いにその人権を尊重しつつ責任も分かちあい、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる社会のことです。

調査票記入にあたってのお願い

- 記入にあたっては、原則としてあて名のご本人がお答えください。
- このアンケート調査は無記名式ですので、名前を記入する必要はありません。また、結果は統計的に処理し、個別の内容を公表することはありませんので、ご迷惑をおかけすることは決してありません。ありのままを回答していただくようお願いいたします。
- ボールペンや鉛筆などで、はっきりと記入してください。
- 質問ごとにあてはまる回答の番号を選び、その番号を○で囲んでください。○をつける数は、質問中の指示にしたがってください。
- 回答していただく方が限られる質問もありますので、質問の前の指示にしたがってお答えください。指示のない質問については全員がお答えください。
- 回答が「その他」にあてはまる場合は、()内になるべく具体的にその内容を記入してください。
- 記入していただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れ、9月11日(月)までにポストに投函してください。その際、切手を貼る必要はありません。

記入にあたっての不明な点や調査についてのお問い合わせはこちらまでお願いします。

渋川市 市民部 市民生活課

TEL : 0279 - 22 - 2463 FAX : 0279 - 24 - 6541

メールアドレス : shiminseikatsu@city.shibukawa.gunma.jp

●あなたとあなたのご家族についてお伺いします。該当する番号に○をつけてください。

F 1 あなたの性別は。(○は1つ)

1 男性	2 女性
------	------

F 2 あなたの年齢は。平成29年8月1日現在の満年齢でお答えください。(○は1つ)

1 18～29歳	2 30歳代	3 40歳代
4 50歳代	5 60歳以上	

F 3 あなたのお住まいはどこですか。(○は1つ)

1 渋川地区	2 伊香保地区	3 小野上地区
4 子持地区	5 赤城地区	6 北橋地区

F 4 あなたの世帯構成は次のどれですか。(○は1つ)

1 一人暮らし	2 夫婦(事実婚を含む)のみ
3 親と子供、夫婦とその親(2世代)	4 親と子と孫など(3世代)
5 その他	

F 5 あなたは結婚(事実婚を含む)されていますか。(○は1つ)

1 未婚	2 既婚(配偶者がいる) → F 5-1へ	3 離別、死別
------	-----------------------	---------

F 5-1 F 5で2に○をつけた方にお聞きします。あなたのご家庭は共働きですか。(○は1つ)

1 共働きである	2 共働きではない
----------	-----------

F 6 あなたには、お子さんがいますか。(○はいくつでも)

1 小学校入学前の子どもがいる	2 小学生の子どもがいる
3 中学生以上18歳未満の子どもがいる	4 18歳以上の子どもがいる
5 いない	

F 7 あなたには、現在、病気、高齢、障がいなどで日常生活において介護や支援を必要とする家族等がいますか。(○は1つ)

1 いる	2 いない
------	-------

F 8 あなたの就業状況についてお聞きします。現在、収入のある仕事をしていますか。(○は1つ)

1 している → F 8-1～3へ	2 していない、または、以前はしていたが、現在はしていない → F 8-4・5へ
-------------------	---

●職場に関する意識について、現在収入のある職業についている方にお聞きします。職業についていない方は問4へ進んでください。

問1 あなたの職場について①～⑭をお答えください。(①～⑬それぞれ〇は1つ)

	はい	いいえ
① 賃金に男女差がある	1	2
② 昇給、昇格に男女差がある	1	2
③ 男性の能力を正當に評価しない	1	2
④ 女性の能力を正當に評価しない	1	2
⑤ お茶くみや雑用は女性がする	1	2
⑥ 育児休業を取得できない、または取得しにくい	1	2
⑦ セクシュアル・ハラスメント防止のための規定がない	1	2
⑧ セクシュアル・ハラスメントを受けた経験がある	1	2
⑨ 結婚や出産すると勤めを続けにくい雰囲気がある	1	2
⑩ 女性は定年まで勤め続けにくい雰囲気がある	1	2
⑪ 希望職種につく機会に男女差がある	1	2
⑫ 教育・研修を受ける機会に男女差がある	1	2
⑬ 女性と男性で違いはない	1	2
⑭ その他にあれば記入してください()		

問2 あなたの職場には課長職以上の女性が登用されていますか。(〇は1つ)

※課長等の役職名を採用していない場合は、あなたの職場の実態により、「役職長」がどの役職に該当するかご判断のうえ、ご記入ください。

1 はい	2 いいえ
------	-------

問3 あなたの職場(会社)に以下の制度や計画はありますか。(〇はいくつでも)

1 有給休暇	2 産前産後休暇
3 介護休業	4 育児休業
5 一般事業主行動計画	6 女性活躍推進行動計画
7 わからない	8 いずれもない

<全員にお聞きします>

問4 施策や事業の企画、方針決定過程に女性が進出しにくくなっている理由は、何だと思えますか。(〇はいくつでも)

- 1 家庭、職場、地域に男女の役割は違って当然という意識が残っている
- 2 組織の仕組みが男性優位にできている
- 3 家庭の支援・協力が得られない
- 4 女性が自らの能力を高める機会が少ない
- 5 女性の活動を社会が支援する仕組みがない
- 6 女性の積極性が不十分である
- 7 その他 ()
- 8 わからない

問5 あなたは、男性にとっても女性にとっても働きやすい環境をつくるためには、どのようなことが必要だと思えますか。(〇は3つまで)

- 1 女性が働くことに対する家庭や地域の理解を深める
- 2 男性の家事・育児への参加を促進する
- 3 保育園、子ども園、放課後児童クラブなどを充実させる
- 4 ホームヘルパーの派遣など、子育て家庭の家事支援を行う
- 5 育児・介護休業制度、労働時間の短縮やフレックスタイム等、就業環境を整える
- 6 求人情報の提供やセミナーの開催など、再就職のための支援を充実する
- 7 昇給・昇格など、職場での男女平等を進める
- 8 自らの職業意識・職業能力を高める
- 9 パートタイマーの労働条件を改善する
- 10 NPOの育成・支援、起業支援など、地域に女性の職場づくりを促進する
- 11 テレワーク、在宅ワークなどの就労環境の適正化を促進する
- 12 その他 ()
- 13 特になし

テレワーク：ICT（情報通信技術）を活用した、時間と場所にとらわれない柔軟な働き方

問6 あなたは、女性の活躍推進に必要だと思うことはどのようなことですか。(○は4つまで)

- | | |
|----|---------------------------------------|
| 1 | 保育所や幼稚園に関すること(場所、保育料など) |
| 2 | 放課後児童クラブに関すること(場所、利用料など) |
| 3 | 介護・家事の支援サービスに関すること(内容、利用方法など) |
| 4 | 就職・再就職のための職業訓練に関すること(利用方法、相談先など) |
| 5 | 起業・NPO活動のこと(支援内容、相談先など) |
| 6 | 仕事と育児・介護との両立支援制度に関すること(内容、利用方法など) |
| 7 | 出産・育児などを経ながら就業を継続している女性のモデル事例に関する情報提供 |
| 8 | 積極的に家事・育児に参画する男性のモデル事例に関する情報提供 |
| 9 | ワーク・ライフ・バランスの推進や働き方の見直しの実践例に関する情報提供 |
| 10 | その他() |
| 11 | 特になし |
| 12 | わからない |

●家庭生活に関する意識について

問7 結婚・家庭・離婚に関する次の①～④のような考え方についてどう思いますか。(①～④それぞれ○は1つ)

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない
① 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい	1	2	3	4	5
② 結婚したら夫婦は同じ姓を名乗る	1	2	3	4	5
③ 結婚しても子どもを持つことにこだわらなくてよい	1	2	3	4	5
④ 結婚してもうまくいかなければ離婚してもよい	1	2	3	4	5

問8 「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。(○は1つ)

- | | | | | | |
|---|--------|---|-----------|---|-----------|
| 1 | そう思う | 2 | ややそう思う | 3 | あまりそう思わない |
| 4 | そう思わない | 5 | どちらともいえない | 6 | わからない |

問9 生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域活動」の優先度について、①あなたの現実（現状）に最も近いものと、②あなたの希望をそれぞれお答えください。（○は1つずつ）

① あなたの現実（現状）	② あなたの希望
1 「仕事」を優先	1 「仕事」を優先
2 「家庭生活」を優先	2 「家庭生活」を優先
3 「地域活動」を優先	3 「地域活動」を優先
4 「仕事」と「家庭生活」ともに優先	4 「仕事」と「家庭生活」ともに優先
5 「仕事」と「地域活動」ともに優先	5 「仕事」と「地域活動」ともに優先
6 「仕事」「家庭生活」「地域活動」いずれも優先	6 「仕事」「家庭生活」「地域活動」いずれも優先
7 わからない	7 わからない

問10 一般的に女性が仕事をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。（○は1つ）

1 女性は職業をもたない方がよい
2 結婚するまでは、職業をもつ方がよい
3 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
4 子どもができて、職業を続ける方がよい
5 子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
6 その他（ ）
7 わからない

●現在結婚（事実婚や別居中を含む）している方にお聞きします。（結婚していない場合は問12へ）

問11 あなたの家庭では、以下の家庭内の仕事（家事等）を、現実には主にどのように分担していますか。（①～⑦それぞれ○は1つ）

	夫	妻	同い夫婦も	子ども	全家族	その他人	わからない	該当しない
① 家事（炊事・洗濯・掃除）	1	2	3	4	5	6	7	8
② 育児	1	2	3	4	5	6	7	8
③ 看護・介護	1	2	3	4	5	6	7	8
④ 学校行事などへの参加	1	2	3	4	5	6	7	8
⑤ 自治会などの地域活動	1	2	3	4	5	6	7	8
⑥ 家計の管理	1	2	3	4	5	6	7	8
⑦ 収入を得る	1	2	3	4	5	6	7	8

<全員にお聞きします>

●男女共同参画社会に関する意識について

問12 現在の社会において、次の①～⑧の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。
あなたの考えに近いものに○をつけてください。(①～⑧それぞれ○は1つ)

	男性が優遇 されている	どちらかとい えは男性が優 遇されている	平等である	どちらかとい えは女性が優 遇されている	女性が優遇 されている	どちらとも いえない	わからない
① 家庭生活では	1	2	3	4	5	6	7
② 職場では	1	2	3	4	5	6	7
③ 学校教育の場では	1	2	3	4	5	6	7
④ 政治の場では	1	2	3	4	5	6	7
⑤ 地域活動の中では	1	2	3	4	5	6	7
⑥ 法律や制度では	1	2	3	4	5	6	7
⑦ 社会通念、慣習・しきたりなどでは	1	2	3	4	5	6	7
⑧ 社会全体では	1	2	3	4	5	6	7

問13 あなたは、①～⑬について、見聞きしたことがありますか。(①～⑬それぞれ○は1つ)

	言葉も内容も知 っている	言葉は聞いたこ とはあるが内容 までは知らない	まったく知らな い
① 男女共同参画社会	1	2	3
② 男女共同参画社会基本法	1	2	3
③ 男女雇用機会均等法	1	2	3
④ 育児・介護休業法	1	2	3
⑤ DV（ドメスティック・バイオレンス）	1	2	3
⑥ 女性活躍推進法	1	2	3
⑦ ポジティブ・アクション（積極的改善措置）	1	2	3
⑧ ジェンダー（社会的性別）	1	2	3
⑨ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	1	2	3
⑩ リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する女性の健康/権利）	1	2	3
⑪ 配偶者暴力相談支援センター	1	2	3
⑫ 「渋川市男女共同参画計画」	1	2	3
⑬ LGBT、性的マイノリティ	1	2	3

●地域における男女共同参画の推進について

問15 あなたは、次のような地域活動に参加していますか。(○はいくつでも)

- | | |
|----------------------|---------------------|
| 1 趣味・教養講座への参加 | 2 女性団体・グループの活動 |
| 3 子ども会、PTAなどの青少年育成活動 | 4 消費者団体、生活協同組合などの活動 |
| 5 福祉ボランティアやNPOなどの活動 | 6 健康づくりや介護予防の活動 |
| 7 安全なまちづくりなどの市民活動 | 8 町内会・自治会、コミュニティ活動 |
| 9 文化・芸術活動 | 10 スポーツ・レクリエーション活動 |
| 11 環境に関わる活動 | 12 その他() |
| 13 特にない | |

問15-1 問15で「1」～「12」を回答した地域活動に参加されている方にお聞きします。
あなたが参加した地域活動の場で次のようなことがありましたか。(○はいくつでも)

- | |
|--|
| 1 行事などの企画は主に男性がしている |
| 2 代表者は男性から選ばれる慣例がある |
| 3 誰もが自由に発言できる雰囲気がない |
| 4 責任ある役を女性が引き受けない |
| 5 お茶くみや食事の準備などは女性が担当することになっている |
| 6 名簿上では男性が会員になっているが、実際は女性(配偶者)が参加・活動している |
| 7 その他() |
| 8 特にない |

問16 あなたは、今後(これからも)参加したいと思う地域活動はどのようなものですか。
(○はいくつでも)

- | | |
|----------------------|---------------------|
| 1 趣味・教養講座への参加 | 2 女性団体・グループの活動 |
| 3 子ども会、PTAなどの青少年育成活動 | 4 消費者団体、生活協同組合などの活動 |
| 5 福祉ボランティアやNPOなどの活動 | 6 健康づくりや介護予防の活動 |
| 7 安全なまちづくりなどの市民活動 | 8 町内会・自治会、コミュニティ活動 |
| 9 文化・芸術活動 | 10 スポーツ・レクリエーション活動 |
| 11 環境に関わる活動 | 12 その他() |
| 13 特にない | |

問17 あなたの住んでいる地域での様々な活動において、男女の積極的な参画を進めるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

- 1 地域に根付いている社会通念や慣習を改めるための啓発活動を充実すること
- 2 地域活動のリーダーに女性を積極的に登用すること
- 3 女性のリーダーを養成するための講習会などを開催すること
- 4 様々な立場の人達が参加しやすいよう活動の時間帯を工夫すること
- 5 地域活動やボランティア活動についての情報提供を充実すること
- 6 男性も女性も積極的に地域活動に参加すること
- 7 家族の理解と協力を得ること
- 8 その他 ()
- 9 わからない

●男女共同参画社会の実現に向けて

問18 全国的に少子化が進んでおり、本市においても年々、出生率が低下しています。安心して子どもを生み育てる渋川市とするため、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

- 1 出産・育児に対する経済的な支援の拡充
- 2 保育サービス、子ども・子育て支援サービスの充実
- 3 ファミリーサポートセンター事業や学童保育など地域の子育て支援の充実
- 4 働きながら子育てができるよう、柔軟な勤務形態の普及
- 5 父親が子育てに十分関わることができる職場環境の整備
- 6 出産・子育て後に再就職しやすい制度づくり
- 7 子育て中の仲間づくり支援
- 8 子育ての悩み相談の充実
- 9 子育て世代のリフレッシュ支援
- 10 ひとり親家庭の自立支援
- 11 その他 ()
- 12 特にない

問19 あなたは、男女共同参画社会を形成していくため、今後、市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(〇は4つまで)

- | |
|--|
| 1 男女共同参画に関する広報・啓発の推進 |
| 2 社会教育などにおける男女平等・男女共同参画に関する教育・学習の推進 |
| 3 女性のための各種相談の充実 |
| 4 各種活動のリーダーとなる女性の養成 |
| 5 生涯を通じた心身の健康維持と増進 |
| 6 母性保護の向上と母子保健の充実 |
| 7 子育て支援の推進と保育サービスの充実 |
| 8 職場における両立支援の推進（仕事と家庭の両立） |
| 9 高齢者や障害者などの生活安定と自立支援 |
| 10 学校教育における男女平等の推進 |
| 11 職場における男女の均等な取り扱いについての周知徹底 |
| 12 女性のチャレンジ支援の推進 |
| 13 政策・方針決定の場への女性の参画を拡充 |
| 14 女性や子どもに対する暴力の根絶（ドメスティック・バイオレンス、ストーカー、セクシュアル・ハラスメント等の対策） |
| 15 各国の女性との交流や情報提供など、国際交流の推進 |
| 16 その他（ ） |
| 17 特になし |

●男女共同参画について、ご意見、ご要望があれば、下記の欄に自由にお書きください。

アンケートはこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。

記入していただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れ、9月11日（月）までにポストに投函してください。その際、切手を貼る必要はありません。

渋川市 男女共同参画に関する事業所実態調査

〈調査の趣旨とご協力のお願い〉

市民の皆さま、市内の事業所の皆さまには、日ごろから市政にご理解とご協力をいただきましてありがとうございます。

渋川市では、男女が社会のあらゆる分野に共に参画し、それぞれの個性や能力を十分に発揮しながら、互いにいきいきと暮らすことのできる「男女共同参画社会」の実現に向けて、「渋川市男女共同参画計画」に基づき、各種施策を推進しています。

この調査は、男女共同参画計画の策定や今後の施策の実施に役立てるためのものです。

この度、市内に事業所を有する企業・事業所様の中から従業者数や業種に配慮したうえで、50社を無作為に選ばせいただきましたところ、貴事業所に回答をお願いすることになりました。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願いいたします。

平成29年8月 渋川市長

～男女共同参画社会とは～

男性も女性もすべての個人が、互いにその人権を尊重しつつ責任も分かちあい、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる社会のことです。

調査票記入にあたってのお願い

- 記入にあたっては、原則としてあて名の企業・事業所の代表者ご本人、または総務もしくは人事を担当されている部署の方がお答えください。
- このアンケート調査は無記名式ですので、企業名・事業所名を記入する必要はありません。また、結果は統計的に処理し、個別の内容を公表することはありませんので、ご迷惑をおかけすることは決してありません。ありのままを回答していただくようお願いいたします。
- ボールペンや鉛筆などで、はっきりと記入してください。
- 質問ごとにあてはまる回答の番号を選び、その番号を○で囲んでください。○をつける数は、質問中の指示にしたがってください。
- 回答が「その他」にあてはまる場合は、() 内になるべく具体的にその内容を記入してください。
- 記入していただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れ、9月11日(月)までに投函してください。その際、切手を貼る必要はありません。

記入にあたっての不明な点や調査についてのお問い合わせはこちらまでお願いいたします。

渋川市 市民部 市民生活課

TEL : 0279 - 22 - 2463 FAX : 0279 - 24 - 6541

メールアドレス : shiminseikatsu@city.shibukawa.gunma.jp

4 ワーク・ライフ・バランスについて

～ワーク・ライフ・バランスとは～

「仕事と生活の調和」と訳され、男性も女性も、あらゆる世代の人が人生の段階に応じて、仕事、家庭生活、地域生活、個人の自己啓発など、様々な活動について、自らが希望するバランスで展開できる状態をいいます。

問7 貴事業所では、残業の削減のために、次のどのような取組を行っていますか。(いくつでも○)

- 1 残業禁止日の設定
- 2 業務時間外の会議の禁止
- 3 時間効率を意識させる仕組
- 4 部下の労働時間削減を上司の評価に反映
- 5 上司からの声かけの推進
- 6 入退時間の管理と警告
- 7 職場の強制消灯
- 8 その他 ()
- 9 特に取り組んでいない

問8 貴事業所では、有給休暇の取得促進のために、次のような取組を行っていますか。(いくつでも○)

- 1 上司からの声かけの推進
- 2 上司による積極的な休暇取得
- 3 担当でなくても仕事を代替できる体制
- 4 時間単位などの柔軟な有給休暇取得制度
- 5 計画的に休暇取得させる仕組
- 6 有給休暇の残日数の通知
- 7 その他 ()
- 8 特に取り組んでいない

問9 貴事業所では、男性従業員の育児や介護への関わりについてどのように考え、または対応していますか。(いくつでも○)

- | | |
|---|---------------------------------------|
| 1 | 男性の育児・介護への関わりを奨励している |
| 2 | 男性の育児・介護への関わりは、企業に良い影響があると考えている |
| 3 | 男性の育児・介護について、管理職への啓発を行っている |
| 4 | 従業員全体に育児・介護と業務の両立について、研修や情報提供をしている |
| 5 | 従業員が育児・介護と業務の両立について相談する仕組みがある |
| 6 | 業務への支障が生じると考えられるため、育児や介護の対応は家庭内ですてほしい |
| 7 | その他 () |

問10 貴事業所では、平成28年度中に、①育児休業や②介護休業の取得実績がありましたか。(それぞれ1つに○、「1 あり」に○をつけた場合は人数を記入してください。)

①育児休業の取得

男性従業員	1 あり → () 人	2 なし
女性従業員	1 あり → () 人	2 なし

②介護休業の取得

男性従業員	1 あり → () 人	2 なし
女性従業員	1 あり → () 人	2 なし

渋川市男女共同参画に関する市民意識調査及び事業所実態調査

〈結果報告書〉

発行日：平成30年3月

発行：渋川市 市民部 市民生活課

住所：〒377-8501 群馬県渋川市石原80番地

TEL：0279-22-2463（直通）

FAX：0279-24-6541